富山高等専門学校	国際ビジネス学専攻	開講年度	令和06年度 (2024年度)

学科到達目標

専攻科は，専門専攻科目および専門共通科目による学修を通じて，幅広い豊かな教養と高度な専門知識を有する人材を育成します。

国際ビジネス学専攻

本専攻では，経営学に関する高度な専門知識とビジネスに関する実践的な能力を併せ持ち，企業・地域社会を取り巻く環境を分析し，それに適合するビジネスモデルを創生できる，環日本海地域ビジネスに関わるコーディネータ，プロジェクトマネージャを育成します。このような人材育成目標に到達するために，所定の単位を修得し，かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。

A 国際的な経営感覚と倫理観を持ち、環日本海地域を舞台に活躍できるビジネスパーソンとしての素養

A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。

A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。

B ビジネスに関する問題の発見・解決に必要な知識と論理的思考力を身につけ、計画的に組織をマネジメントできる能力

B-1 ビジネスに関する専門知識について論理的に説明できる。

B-2 計画的に組織をマネジメントすることができる。

C 企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる能力

C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。

C-2 企業・地域社会を取り巻く環境を分析できる。

C-3 適合するビジネスモデルを創生し、表現することができる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	英語特論Ⅰ	0004	学修単位	2	2								山村 啓人	
一般	選択	英語特論Ⅱ	0005	学修単位	2			2						山村 啓人	
一般	選択	応用英語	0006	学修単位	2	2								西原 雅博	
一般	選択	国際ビジネス外書講読	0014	学修単位	2			2						清 剛治	
専門	選択	衝撃工学	0001	学修単位	2	2								保前 友高	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究Ⅰ	0002	学修単位	4	4								松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究Ⅰ	0003	学修単位	4			4						松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌	
専門	選択	技術英語	0007	学修単位	2			2						由井 四海,的場 隆一,経田 僚昭,中谷 俊彦,宮崎 衣澄	
専門	選択	経営学特論Ⅱ	0008	学修単位	2			2							
専門	必修	経営管理特論	0009	学修単位	2	2								宮重 徹也	

専門	選択	地域産業学	0010	学修単位	2			2					秋口 俊輔,萩原 信吾,山田 圭祐,山本 桂一郎,専攻科教員,ソリューションセンター教員	
専門	選択	地域経営特論	0011	学修単位	2	2							那須野 育大	
専門	選択	企業論特論	0012	学修単位	2			2					田嶋 雄太	
専門	選択	ビジネス創造論	0013	学修単位	2	2							清 剛治	
専門	選択	企業と雇用	0015	学修単位	2			2					松原 義弘	
専門	必修	環日本海ビジネス事情	0016	学修単位	2	2							海老原 毅,清 剛治	
専門	必修	環日本海ビジネス演習	0017	学修単位	2			2					岡本 勝規,海老原 毅	
専門	必修	商業英語	0018	学修単位	2			2					クーパー トッド	
専門	必修	経営システム分析論	0019	学修単位	2			2					村山 雅子	
専門	必修	経営戦略特論	0020	学修単位	2			2					宮重 徹也	
専門	選択	技術経営(MOT)論	0021	学修単位	2	2							清 剛治	
専門	選択	製品開発論	0022	学修単位	2			2					塩見 浩介	
専門	選択	情報処理学	0023	学修単位	2	2							秋口 俊輔	
専門	選択	応用数学特論	0024	学修単位	2	2							櫻井 秀人	
専門	選択	応用物理学特論	0025	学修単位	2	2							大竹 由記子	
専門	選択	数学・物理学演習	0026	学修単位	2			2					伊藤 尚	
専門	選択	インターンシップＢ（国外）	0027	学修単位	3	3							古山 彰一,長谷川 博,経田 僚昭	
専門	選択	インターンシップＡ（国内）	0028	学修単位	2	2							由井 四海,長谷川 博	
一般	選択	日本語・日本文学	0034	学修単位	2							2	近藤 周吾,久保 陽子	
一般	選択	地域社会研究	0035	学修単位	2					2			横田 数弘	
一般	選択	健康科学	0040	学修単位	2							2	大橋 千里	
一般	選択	産業特論	0041	学修単位	2					2			長谷川 博	
一般	選択	環日本海文化論	0042	学修単位	2							2	宮崎 衣澄	
専門	選択	パラメータ設計	0029	学修単位	2					2			水谷 淳之介	
専門	選択	生産開発システム	0030	学修単位	2							2	山本 桂一郎	
専門	選択	地球科学概論	0031	学修単位	2							2	福留 研一	

専門	必修	国際ビジネス学特別研究Ⅱ	0032	学修単位	4					2	2		松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌	
専門	必修	国際ビジネス学特別演習	0033	学修単位	4					4			松原 義弘,海老原 毅,西原 雅博,長谷川 博,宮重 徹也,塩見 浩介,萩原 信吾,宮崎 衣澄,村山 雅子,邢 雪歌,田嶋 雄太	
専門	選択	地域イノベーション論	0036	学修単位	2							2	清 剛治	
専門	選択	ビジネス会計論	0037	学修単位	2					2			塩見 浩介	
専門	選択	応用情報処理論	0038	学修単位	2					2			萩原 信吾	
専門	選択	経営システム科学論	0039	学修単位	2							2	村山 雅子	
専門	必修	技術者倫理・企業倫理	0043	学修単位	2							2	横田 数弘,塚田 章,松原 義弘	
専門	選択	国際関係論	0044	学修単位	2							2	海老原 毅	
専門	選択	港湾実務	0045	学修単位	2					2			岡本 勝規	
専門	選択	港湾物流	0046	学修単位	2					2			岡本 勝規	
専門	必修	数理意思決定論	0047	学修単位	2					2			萩原 信吾	
専門	選択	経済学特論Ⅰ	0048	履修単位	2					4			邢 雪歌	
専門	選択	経済学特論Ⅱ	0049	履修単位	2					2	2		邢 雪歌	

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語特論 I

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Writing Facilitator（構造から学べるパラグラフ・ライティング入門）（松柏社） その他教員が用意した教材		
担当教員	山村 啓人		

到達目標

本講義では、これまで教わる機会がほとんどなかったであろう英語のライティングを扱う。研究発表や論文作成も視野に入れながら、身近な話題を用いて首尾一貫した論理的な英文エッセイを書けるようにすることが目標である。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安 (high) 80%	標準的な到達レベルの目安 (moderate) 60%	未到達レベルの目安 (Fail) <60%
英文ライティング（文レベル）	文法的に正確な英文を作成することができる。	文法的に誤りはあるものの、意味の伝達を阻害するほどではなく、おおむね英文を作成することができる。	必要な要素を満たした英文を作成することができない。
英文ライティング（談話レベル）	文同士が論理的につながりのある文章を作成することができる。	展開の不十分さはあるものの、ほぼ論理的に一貫した文章を作成することができる。	論理的につながりのある文章を作成することができない。
内容・思考	自らの主張を、様々な理由や具体例を用いて説得力のあるかたちで論じることができる。	根拠の不十分さや偏りはあるものの、おおむね自らの主張を理由や具体例を用いて論じることができる。	自らの主張を、理由や具体例を用いて展開させることができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-1

教育方法等

概要	伝わりやすい明快な英文を書くためには、英語ライティングのルールに従う必要がある。パラグラフを構成する一つ一つの文を文法的に整えるだけではなく、文を超えたパラグラフレベルにおいても、英語の発想に沿った書き方を学ぶ必要がある。本講義では、特に後者に焦点を置き、パラグラフ・ライティングの演習を行う。 必要に応じて、基本的な英文の組み立て方を学ぶために、毎回冒頭で口頭和文英訳の演習を行うことも予定している。
授業の進め方・方法	授業では、学生中心の活動を多く行うため、一人一人が主体的に学ぶことが求められる。 書くだけではなく、英語による口頭コミュニケーションも行いながら、双方向の授業を行うため、積極的に聞く・話すことにも挑戦してほしい。
注意点	・成績は、ミニ中間試験（40%）と学期末に提出してもらう英文エッセイ（60%）で評価する予定である。 ・学修単位のため、授業外学習が必要である。 （授業外学習・事前）事前に授業内容を予習したり指示された課題に取り組んでおく。 （授業外学習・事後）理解した内容の復習や音読を十分に行う。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 研究、論文とは何か	授業の目標や概要が理解できる
		2週	Unit1: A Paragraph as a Product	パラグラフの概念が理解できる。
		3週	Unit2: Writing a Topic Sentence	トピック・センテンスの概念が理解でき、実際に書くことができる。
		4週	Unit3: Writing a Supporting Sentence	サポーティング・センテンスの概念が理解でき、実際に書くことができる。
		5週	Unit4: Writing a Concluding Sentence	コンクルーディング・センテンスの概念が理解でき、実際に書くことができる。
		6週	Unit4: Writing a Concluding Sentence 2	コンクルーディング・センテンスの概念が理解でき、実際に書くことができる。
		7週	The Process of Paragraph Writing	パラグラフ・ライティングの手順について理解することができる。
		8週	ミニ中間試験	これまで学習した範囲の習得状況を確認する。
	2ndQ	9週	Unit5: Explaining Your Character	自分の性格について、まとまりのある英文を書くことができる。
		10週	Unit5: Explaining Your Character 2	自分の性格について、まとまりのある英文を書くことができる。
		11週	Unit6: Describing Your Daily Life	学生生活について、まとまりのある英文を書くことができる。
		12週	Unit6: Describing Your Daily Life 2	学生生活について、まとまりのある英文を書くことができる。
		13週	Unit7: Expressing an Opinion	自分の意見を表明するまとまりのある英文を書くことができる。
		14週	Unit7: Expressing an Opinion 2	自分の意見を表明するまとまりのある英文を書くことができる。
		15週	英文エッセイ課題	あるトピックについて、実際にパラグラフ・ライティングを行う。

		16週	英文エッセイのフィードバック	成績評価・確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	ミニ中間試験	学期末英文エッセイ	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	40	60	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語特論Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	Writing Facilitator（構造から学べるパラグラフ・ライティング入門）（松柏社） その他教員が用意した教材		
担当教員	山村 啓人		

到達目標

本講義では、これまで教わる機会がほとんどなかったであろう英語のライティングを扱う。研究発表や論文作成も視野に入れながら、身近な話題を用いて首尾一貫した論理的な英文エッセイを書けるようにすることが目標である。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安 (high) 80%	標準的な到達レベルの目安 (moderate) 60%	未到達レベルの目安 (Fail) <60%
英文ライティング（文レベル）	文法的に正確な英文を作成することができる。	文法的に誤りはあるものの、意味の伝達を阻害するほどではなく、おおむね英文を作成することができる。	必要な要素を満たした英文を作成することができない。
英文ライティング（談話レベル）	文同士が論理的につながりのある文章を作成することができる。	展開の不十分さはあるものの、ほぼ論理的に一貫した文章を作成することができる。	論理的につながりのある文章を作成することができない。
内容・思考	自らの主張を、様々な理由や具体例を用いて説得力のあるかたちで論じることができる。	根拠の不十分さや偏りはあるものの、おおむね自らの主張を理由や具体例を用いて論じることができる。	自らの主張を、理由や具体例を用いて展開させることができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-1

教育方法等

概要	伝わりやすい明快な英文を書くためには、英語ライティングのルールに従う必要がある。パラグラフを構成する一つ一つの文を文法的に整えるだけではなく、文を超えたパラグラフレベルにおいても、英語の発想に沿った書き方を学ぶ必要がある。本講義では、特に後者に焦点を置き、パラグラフ・ライティングの演習を行う。 必要に応じて、基本的な英文の組み立て方を学ぶために、毎回冒頭で口頭和文英訳の演習を行うことも予定している。
授業の進め方・方法	授業では、学生中心の活動を多く行うため、一人一人が主体的に学ぶことが求められる。 書くだけではなく、英語による口頭コミュニケーションも行いながら、双方向の授業を行うため、積極的に聞く・話すことにも挑戦してほしい。
注意点	・成績は、ミニ中間試験（40%）と学期末に提出してもらう英文エッセイ（60%）で評価する予定である。 ・学修単位のため、授業外学習が必要である。 （授業外学習・事前）事前に授業内容を予習したり指示された課題に取り組んでおく。 （授業外学習・事後）理解した内容の復習や音読を十分に行う。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	Unit8: Giving Advice and Instructions	読み手にアドバイスするまとまりのある英文を書くことができる。
		2週	Unit8: Giving Advice and Instructions 2	読み手にアドバイスするまとまりのある英文を書くことができる。
		3週	Unit 9: Comparing and Contrasting	比較対照するまとまりのある英文を書くことができる。
		4週	Unit 9: Comparing and Contrasting 2	比較対照するまとまりのある英文を書くことができる。
		5週	Unit10: Explaining Japanese Culture	日本の風習や文化について紹介をするためのまとまりのある英文を書くことができる。
		6週	Unit10: Explaining Japanese Culture 2	日本の風習や文化について紹介をするためのまとまりのある英文を書くことができる。
		7週	Unit10: Explaining Japanese Culture 3	日本の風習や文化について紹介をするためのまとまりのある英文を書くことができる。
		8週	ミニ中間試験	これまで学習した範囲の習得状況を確認する。
	4thQ	9週	Unit11: Describing Data Expressed in Graphs	図や表から情報を読み取ってまとまりのある英文を書くことができる。
		10週	Unit11: Describing Data Expressed in Graphs 2	図や表から情報を読み取ってまとまりのある英文を書くことができる。
		11週	Unit11: Describing Data Expressed in Graphs 3	図や表から情報を読み取ってまとまりのある英文を書くことができる。
		12週	Unit12: Summarizing What You Have Read	読んだり聞いたりした内容を要約するまとまりのある英文を書くことができる。
		13週	Unit12: Summarizing What You Have Read 2	読んだり聞いたりした内容を要約するまとまりのある英文を書くことができる。
		14週	Unit12: Summarizing What You Have Read 3	読んだり聞いたりした内容を要約するまとまりのある英文を書くことができる。

		15週	Essay writing	与えられたトピックについてまとまりのある英文を書くことができる。
		16週	英文エッセイのフィードバック	成績評価・確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	ミニ中間試験	学期末英文エッセイ	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	40	60	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用英語

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Understanding English Grammar for the TOEIC Test - Grammar Exercises in Dialogues（配布教材）		
担当教員	西原 雅博		

到達目標

1．英文法の理解を英文エッセイにつなげることが出来る。
2．段落構成を意識した英文エッセイを書くことが出来る。
3．TOEICテストにおいて自分が設定した目標スコアを達成することが出来る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
英文法の理解を英文エッセイにつなげる	テキストで学んだ英文法をエッセイの中で効果的で正確に使うことが出来る。	テキストで学んだ英文法をエッセイの中でおよそ正確に使うことが出来る。	テキストで学んだ英文法をエッセイの中で使うことがほとんど出来ない。
段落構成を意識した英文エッセイを書く	段落を作り論旨の展開が明瞭な英文エッセイを書くことが出来る。	段落を作り論旨の展開がおよそ明瞭な英文エッセイを書くことが出来る。	段落を作ることが出来ない、あるいは作っても論旨の展開が明瞭な英文エッセイを書くことが出来る。
TOEICテストで自分が設定した目標スコアを達成する	TOEICテストで自分が設定した適切な目標スコアをしっかりと計画的に努力して達成することが出来る。	TOEICテストで自分が設定した適切な目標スコアをおよそ達成することが出来る。	TOEICテストで自分が設定した目標スコアが適切でなく、十分な努力をすることが出来ずにその目標を達成することが出来ない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-1

教育方法等

概要	この授業では、本科で学んできた各自の英語を文法とレトリックの観点から一層正確なものにすること、英文エッセイの中で文法とレトリックを実際に応用すること、英語力をTOEICテストで評価すること、以上を目的としています。専攻科の学生に求められる英語の応用力を高めることがねらいです。
授業の進め方・方法	授業は、学生の主体的な準備活動と授業での演習が主となります。学生はシラバスに指定された箇所を毎週周到に準備して授業に臨んで下さい。授業ではペア・ワークとグループ・ワークを基本にして「教え合い・学び合い」を促します。教師→学生の一方通行の授業にならないように授業に参加し、皆さんが他のクラスメートに何らかのーわずかでもいいからー貢献をするという姿勢で行動して下さい。
注意点	成績評価は、①英文エッセイ、②「自己評価」の2本立てで行います。エッセイはA4用紙1ページきっかり。手書き。タイトルは "Why Am I Studying English?" 。「中間試験」で下書き、「期末試験」で仕上げを行います。試験への英語関係辞書の持ち込みは可能。スマホは不可。下書きの持ち込みも不可。①英文エッセイと②「自己評価」の詳しい要領や評価基準については、担当教員にあらかじめ聞くか、授業の初日に配布されるシラバスを参照してください。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Ex.1: 時制の判断（1）単文	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「単文の時制の判断」について学ぶ。
		2週	Ex.2: 時制の判断（2）複文	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「複文の時制の判断」について学ぶ。
		3週	Ex.3: 品詞の決定、Ex.4: 使役動詞（前半）	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「品詞の判断、及び、使役動詞の用法」について学ぶ。
		4週	Ex.4: 使役動詞（後半）、Ex.5: 名詞の単複	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「使役動詞の用法、及び、名詞の単複の判断」について学ぶ。
		5週	Ex.6: 仮定法の3つの形式と意味	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「仮定法の3種類、その形式と意味」について学ぶ。
		6週	Ex.7: 様々な接続表現の用法と意味	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「様々な接続表現の用法と意味」について学ぶ。
		7週	Ex.8: 「緊急」の動詞・形容詞・名詞	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「「緊急」の動詞、形容詞、名詞を含む文の用法」について学ぶ。
		8週	Ex. 9: 代名詞、Ex.10: 不定詞と動名詞（1）動詞の目的語①	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「代名詞の用法、動詞の目的語としての不定詞及び動名詞の用法」について学ぶ。
	2ndQ	9週	中間試験（英文エッセイの下書きと第1回「自己評価」）＊受験必須	英文エッセイと「自己評価」に取り組む。90分。
		10週	Ex.10: 不定詞と動名詞（1）動詞の目的語②	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「動詞の目的語としての不定詞、及び、動名詞の用法」についてさらに学ぶ。
		11週	Ex.11: 不定詞と動名詞（2）一般的用法	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「不定詞と動名詞の一般的な用法」について学ぶ。
		12週	Ex. 12: 関係代名詞・関係副詞（前半）	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「関係代名詞、及び、関係副詞の用法」について学ぶ。

		13週	Ex. 12: 関係代名詞・関係副詞（後半）	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「関係代名詞、及び、関係副詞の用法」についてさらに学ぶ。
		14週	Ex.15: 前置詞の基本、Ex.16: 冠詞の基本	ペア・ワークとグループ・ワークを中心として「前置詞と冠詞の基本的な用法」について学ぶ。
		15週	期末試験（英文エッセイの仕上げと最終「自己評価」）＊受験必須	中間試験で作成した英文エッセイと「自己評価」を振り返りながら、エッセイの仕上げと「自己評価」の完成版を作成する。90分。
		16週	英文エッセイと「自己評価」の返却と学びの振り返り	英文エッセイと「自己評価」の返却を通じて学習したことを振り返る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	英文エッセイと「自己評価」	プレゼンテーション大会	相互評価	態度	ポートフォリオ	出席（極めて重要）	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	衝撃工学

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	自作のプリント教材を使用する		
担当教員	保前 友高		

到達目標

1．物理学・材料力学の授業で学んだ衝突現象について、衝撃工学の観点から再度、理解し、解を求めることができる。
2．凝縮相の衝撃圧縮について、理論的な基礎、解析方法や応用例について理解し、必要な値を求めることができる。
3．高エネルギー物質が爆発した場合に周囲に及ぼす影響、それらの被害の低減方法について理解し、必要な値を求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	明確に説明でき、ただちに解を求めることができる。	説明でき、解を求めることができる。	説明できない。解を求めることができない。
評価項目2	明確に説明でき、ただちに値を求めることができる。	説明でき、値を求めることができる。	説明できない。値を求めることができない。
評価項目3	明確に説明でき、ただちに値を求めることができる。	説明でき、値を求めることができる。	説明できない。値を求めることができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	講義、および、配布教材の自習、学生同士の教えあい、問題演習、輪講など、アクティブラーニングを念頭に置いた形態で授業を行う。 また、教材として英語文献を多用することにより、英語文献の読み方を経験的に学ぶ。 この科目は公設の研究所で高速衝突、爆発影響評価を担当していた教員が、その経験を活かし、衝撃現象について上記の形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	教員単独で行う。 衝撃現象は、単発・高速現象であることに特徴があり、静的な方法では得られない非平衡かつ極限条件の場を比較的容易に実現できることから、工学的な応用もなされてきている。 本講義では、導入として、物理学・材料力学で学んだ衝突現象から話を始め、前半は、凝縮相の衝撃圧縮について、理論的な基礎、解析方法、興味深い研究成果や応用例について述べる。後半は、もう一つの衝撃現象の例として、爆発現象について言及する。高エネルギー物質が爆発した場合に周囲に及ぼす影響、それらの被害の低減方法について、最新の研究成果をもとに授業を行う。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	高専本科程度の物理学（科目名は問わない）の履修を前提として講義を行う。 The recognition of credit requires 60 points or more rating. 単位認定には、60点以上の評定が必要である。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業ごとに事前学習、事後学習が必要である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	・評価方法 ・物理学・材料力学で扱う衝突問題①	・シラバス、授業の進め方、評価方法を理解する。 ・物理学・材料力学で扱う衝突問題（弾性衝突、非弾性衝突）について、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		2週	・物理学・材料力学で扱う衝突問題②	物理学・材料力学で扱う衝突問題（ひずみエネルギー、衝撃応力）について、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		3週	・物理学・材料力学で扱う衝突問題③	物理学・材料力学で扱う衝突問題（その他の問題）について、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		4週	・超高速衝突による凝縮相の衝撃圧縮	固体同士の超高速衝突により起こる現象（衝撃圧縮）について理解する。（課題の問題を解ける。） 事前学習、事後学習が必要である。
		5週	・衝撃圧縮の保存則による一次元解析①	・衝撃圧縮の質量、運動量、エネルギー保存則による一次元解析について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		6週	・衝撃圧縮の保存則による一次元解析②	・前週に扱った理論を用いた実際的な問題の解析について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		7週	・Hugoniot圧縮曲線	・衝撃圧縮時の体積（密度）-圧力関係式について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		8週	・衝撃インピーダンスマッチング法による解析	・Hugoniot圧縮曲線を用いた衝撃圧縮状態の解析方法について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
	2ndQ	9週	・衝撃圧縮の実験方法と結果の代表的な例	・衝撃圧縮を行う実験方法や成果の例について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。

		10週	・爆発と火薬類の性状	・火薬類の爆発と性質について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		11週	・爆風と飛散破片が周囲に及ぼす影響	・爆発により生じる爆風と高速飛散破片が周囲に及ぼす影響（被害）について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		12週	・爆風による影響評価に関する実験方法	・爆風による影響を評価する実験方法について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		13週	・爆風圧の低減方法	・爆風圧による影響（被害）の低減方法について理解し、課題の問題を解ける。 事前学習、事後学習が必要である。
		14週	・飛散破片の影響評価に関する実験方法	・高速飛散破片による影響を評価する実験方法について 事前学習、事後学習が必要である。
		15週	・期末試験	・期末試験
		16週	・期末試験の返却、復習	・期末試験で解けなかった問題を解ける。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	50	50	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	各担当教員が適宜作成し配付する。		
担当教員	松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌		

到達目標

1．第1学年から身につけてきた国際ビジネス学科の各専門科目に関する知識技能を基礎として、今後の就職や進学といった自分らしい進路選択・開拓を行なうことができる。
2．第1学年から身につけてきた国際ビジネス学科の各専門科目に関する知識技能を基礎として、卒業研究活動を行なうことができる。
3．自分らしい進路選択と開拓活動、及び、卒業研究活動を通して、主体的自律的に学習し行動することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
進路選択	これまでに身につけた教養科目、専門科目の知識を使って、今後の自分らしい進路選択・開拓活動を具体的に行なうことができる。	これまでに身につけた教養科目、専門科目の知識を使って、今後の自分らしい進路選択活動を模索し始める。	今後の自分らしい進路選択・開拓活動を開始することが出来ない。
卒業研究	これまでに身につけた教養科目、専門科目の知識との関連で、自らの卒業研究のテーマを設定し、自立的に関連資料を探索することができる。	自らの興味･関心に従って、卒業研究のテーマをおよそ決定させ、必要な文献の収集の方法を実践することができる。	卒業研究テーマの設定や研究計画を作成することができない。
主体性・自律性	自らの進路選択や開拓、及び、卒業研究論文のテーマの設定と研究計画の作成に対して、主体的自立的に取り組むことができる。	自らの進路選択や開拓、及び、卒業研究論文のテーマの設定と研究計画の作成に取り組むことができる。	自らの進路開拓や卒業研究論文のテーマの設定について、主体的自立的に取り組もうとしない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	「ビジネス・ゼミナールⅠ」では、国際ビジネス学科の専門科目を中心に学んだ知識や技能を使って、自分らしい進路の選択について考えることと、これとの連関で適切な卒業研究のテーマを立てることを主な目標としています。そのうち、「ビジネス・ゼミナールⅠ」では前者の将来の進路について考え、これを具体的な行動につなげていくことに力点をおきます。
授業の進め方・方法	この講義は、基本的にはホームルーム教室で行ないます。そのときどきのテーマによって、担任教員単独による講義の他、民間企業、大学編入、公務員受験等、それぞれの進路状況に精通した学科教員が主導することもありますし、さらには外部講師を招いて、例えばＳＰＩ試験についての講演を聴くこともあります。
注意点	この講義の評価は、出席状況の他に、レポートの作成、就職試験模擬試験への取組状況などによって総合的に行ないます。必修科目なので確実な出席を求めます。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	「ビジネス・ゼミナールⅠ・Ⅱ」のガイダンス、卒業単位・単位互換資格について	「ビジネス・ゼミナールⅠ」及びその「Ⅱ」の趣旨を理解し、主体的に活用する心構えを作る。卒業要件単位の構造、選択科目、単位互換の対象となる資格試験に関する知識を確実にすることができる。
		2週	学科の進路状況の概説	国際ビジネス学科の卒業生の進路状況（大学編入、専攻科、民間企業、公務員等）を知り、自らの進路選択に投影させて考えることができる。
		3週	インターンシップについてのガイダンス	昨年度経験者の現国際ビジネス学科5年生4人（県内、県外、春期参加者）の体験談から、自分にとってのインターンシップの意義を考察することができる。
		4週	春休み学科課題の推薦図書レポートの相互ピアレビュー	推薦教員ごとに集まって、学生間でレポート内容について紹介し、意見を交換し、図書に対する理解を深めると同時に、将来の卒業研究ゼミの形式を経験する。
		5週	卒業研究における調査方法についてのガイダンス	卒業研究の調査・執筆に必要な参考文献や資料のインターネット上での検索方法を学び、図書館の設備を具体的に見学して、資料収集活動を自立的に行なうための知識を獲得する。
		6週	第1回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		7週	第2回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		8週	第3回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
	2ndQ	9週	SPIに関する講演	外部講師による就職試験対策の一環として SPI について講演を聴き、また模擬受験の準備を行なう。
		10週	第4回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。

		11週	第5回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		12週	第6回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		13週	第7回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		14週	第8回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		15週	第9回「オープン・ゼミ」	5~6名のグループを編成して、各卒研教員室を訪問し、教員の専門分野、指導分野、指導方法等について話を聴き、また質疑応答を行なう。
		16週	まとめ	担任教師による前期の講義の趣旨の振り返り、まとめ、及び、後期の展望を聴く。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	50	0	0	0	0	50

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌		

到達目標

1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。
授業の進め方・方法	各研究室において実施
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	1年目後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。
		2週	研究	論文作成ができる。
		3週	研究	論文作成ができる。
		4週	研究	論文作成ができる。
		5週	研究	論文作成ができる。
		6週	研究	論文作成ができる。
		7週	研究	論文作成ができる。
		8週	研究	論文作成ができる。
	4thQ	9週	研究	論文作成ができる。
		10週	研究	論文作成ができる。
		11週	研究	論文作成ができる。
		12週	研究	論文作成ができる。
		13週	研究	論文作成ができる。
		14週	研究	論文作成ができる。
		15週	第２回特別研究発表会	研究報告ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	技術英語

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しないが、Advanced Engineering Mathematics(John Willey & Sons. Inc.), 機械系の工業英語(ｺﾛﾅ社) を参考資料とする。		
担当教員	由井 四海,的場 隆一,経田 僚昭,中谷 俊彦,宮崎 衣澄		

到達目標

実用的な科学技術英文を読みこなし、技術英作文、英語プレゼンテーションの経験を積むことを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分の言いたい内容を正確な英文と言葉で表現することができる。	自分の言いたい内容を一部誤りはあっても英文と言葉で表現することができる。	自分の言いたい内容を英文と言葉で表現することができない。
評価項目2	自分のアイデアを効果的に書き表現することができる。	自分のアイデアを一部誤りはあっても表現することができる。	自分のアイデアを表現することができない。
評価項目3	Technologyに関する英語動画を見て、正確に内容を把握できる。	Technologyに関する英語動画を見て、一部誤りはあっても内容を把握できる。	Technologyに関する英語動画を見て、内容を把握できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-1

教育方法等

概要	英語、外国語、専門用語、文法、異文化理解に関する内容を担当教員それぞれがオムニバス形式で授業を進める。
授業の進め方・方法	各担当教員が、それぞれの担当分野に適した方法で授業を行う。オムニバス形式。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行なってから授業に臨むこと。
注意点	オムニバス方式の各授業についての小テスト、提出課題により担当各教員が評価を行い、算術平均をとり最終評価とする。JABEEの評価基準を満たすには60点以上必要。 学修単位のため, 60時間相当の授業外学習が必要である. 授業外学習・事前:授業内容を予習する. 授業外学習・事後:授業内容に関する課題を解く. 課題については, レポートとして評価する.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	技術英語のリスニングとディクテーション-1	身近な科学技術に関するビデオを使ったリスニングとそれの日本語での要約 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		2週	技術英語のリスニングとディクテーション-2	身近な科学技術に関するビデオを使ったリスニングと英語での書き取り 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		3週	技術英語のリスニングとディクテーション-3	日本語での要約と英語での書き取りの和訳を比較しながらわかりやすい英語と日本語に修正 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		4週	技術英語のリスニングとディクテーション-4	日本語での要約と英語での書き取りの和訳を比較しながらわかりやすい英語と日本語に修正 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		5週	技術英語のリスニングとディクテーション-5	日本語での要約と英語での書き取りの和訳を比較しながらわかりやすい英語と日本語に修正 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		6週	数学・物理学における英語表現-1	科学技術分野で正確な表現と解釈が求められる数，数式とグラフ等の英語表現について，英文数学入門書等を題材にして，教授する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと

		7週	数学・物理学における英語表現-2	科学技術分野で正確な表現と解釈が求められる数，数式とグラフ等の英語表現について，英文数学入門書等を題材にして，教授する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		8週	数学・物理学における英語表現-3	学生が十分に理解しているニュートンの力学法則等の古典力学を題材として，理解している内容とその英語表現とを対比させ，物理学における科学技術表現法の基礎について，教授する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
	4thQ	9週	数学・物理学における英語表現-4	学生が十分に理解しているニュートンの力学法則等の古典力学を題材として，理解している内容とその英語表現とを対比させ，物理学における科学技術表現法の基礎について，教授する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		10週	数学・物理学における英語表現-5	学生が十分に理解しているニュートンの力学法則等の古典力学を題材として，理解している内容とその英語表現とを対比させ，物理学における科学技術表現法の基礎について，教授する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		11週	効果的なプレゼンテーション	できるだけシンプルな英語で研究内容を発信する方法を紹介する 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		12週	表やグラフの説明方法	英語による表やグラフの説明方法など研究発表において必要となる表現方法について教授する 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		13週	研究概要スライド作成	自らの研究を１枚のポンチ絵に落とし込み，これを英語で発表する 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		14週	英語によるプレゼンテーション-4	英語によるプレゼンテーションについて、さらに解説する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		15週	英語によるプレゼンテーション-5	英語によるプレゼンテーションについて、さらに解説する。 授業外学習・事前:授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること 授業外学習・事後:授業内容の復習および授業内容に関する課題を解くこと
		16週	総合評価・成績確認	オムニバス方式の各授業についての小テスト、提出課題により評価するので、期末試験は実施しない。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	150	30	30	30	60	300
基礎的能力	0	50	10	10	10	20	100
専門的能力	0	50	10	10	10	20	100
分野横断的能力	0	50	10	10	10	20	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経営管理特論

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	村田和博「経営学」		
担当教員	宮重 徹也		

到達目標

経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。	経営管理論の理論体系が理解できる。	経営管理論の理論体系が理解できない。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	本講義では、経営管理論の理論体系の習得と実践能力の学習を目的とした講義を行う。 この科目は企業での勤務経験を要する教員が、その経験を活かし、経営管理について講義形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本講義の概要を理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		2週	古典的管理の概念	古典的管理論の概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		3週	古典的管理の事例分析（１）	古典的管理論の事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		4週	古典的管理の事例分析（２）	古典的管理論の事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		5週	モチベーションの概念	モチベーションの概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		6週	モチベーションの事例分析（１）	モチベーションの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		7週	モチベーションの事例分析（２）	モチベーションの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		8週	インセンティブの概念	インセンティブの概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
	2ndQ	9週	インセンティブの事例分析（１）	インセンティブの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		10週	インセンティブの事例分析（２）	インセンティブの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		11週	リーダーシップの概念	リーダーシップの概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		12週	リーダーシップの事例分析（１）	リーダーシップの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		13週	リーダーシップの事例分析（２）	リーダーシップの事例について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		14週	企業倫理の概念	企業倫理の概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。

		15週	期末試験	
		16週	答案返却、解説、授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	地域産業学

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	秋口 俊輔,萩原 信吾,山田 圭祐,山本 桂一郎,専攻科教員 ,ソリューションセンター教員		

到達目標

1. 富山県内の産業構造および分野ごとの特徴を説明できる。
2. 地域産業について，専攻する専門的な視点で説明できる。
3. 地域産業と技術者または企業人としての関わりを理解し，自分の意見を述べることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	富山県内の産業構造及び分野ごとの特徴を8割程度理解し説明できる.	富山県内の産業構造及び分野ごとの特徴を6割程度理解し説明できる.	富山県内の産業構造及び分野ごとの特徴を6割程度理解したうえで説明できない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	富山県内のものづくりに関連した企業技術者から，産業と地域の関わりとその技術及び環境問題（SDGs）への取り組みについて学び，各自の専攻に関連した視点から地域産業の構造を考え，分析する。専門技術と産業の位置づけを深く考える機会とし，就職や進学などの進路やキャリアデザインに役立てる。 この科目は、富山県機電工業会に所属する企業の実務者が講師となり、富山県内の産業に関して実務に基づく講義と工場見学を行うものである。
授業の進め方・方法	富山県機電工業会に所属する企業から講師を招き講演を頂く．講義はオムニバス形式とし，3回程度のレポート提出と1回程度の工場見学を実施する.
注意点	日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ，時事的な事柄に関心を持つように心がけること. 地域産業について学習内容と分析をまとめたレポートを提出し，その論述内容を中心に成績評価を行う。 単位認定には、６０点以上の評定が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	富山県の産業の概要：富山県の産業について概説する	富山県の産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		2週	アルミ産業概論（１）：富山県のアルミ産業について概説する.	富山県のアルミ産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		3週	アルミ産業概論（２）：富山県のアルミ産業について概説する.	富山県のアルミ産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		4週	工作機械概論：富山県の工作機械業について概説する	富山県の工作機械業界の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		5週	アルミ産業・工作機械まとめ：これまでの学習内容についてグループワークで業界を調査しまとめる	富山県のアルミ産業・工作機械業界の特徴について理解し，説明することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		6週	電子部品概論（１）：富山県の電子部品産業について概説する	富山県の電子部品産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		7週	電子部品概論（２）：富山県の電子部品産業について概説する	富山県の電子部品産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		8週	情報産業概論（１）：県内企業における実地調査	
	4thQ	9週	情報産業概論（２）：県内企業における実地調査	
		10週	情報産業概論（３）：富山県の情報産業について概説する	富山県の情報産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		11週	情報産業概論（４）：富山県の情報産業について概説する	富山県の情報産業の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

		12週	金型概論（１）：富山県の金型業界について概説する	富山県の金型業界の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		13週	金型概論（２）：富山県の金型業界について概説する	富山県の金型業界の特徴について理解することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		14週	電子部品・情報産業・金型業界まとめ：これまで学習した内容についてグループワークで業界を調査しまとめる	富山県の電子部品・情報産業・金型業界の特徴について理解し，説明することが出来る 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。
		15週	まとめ	
		16週	成績確認，授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	レポート	合計
総合評価割合	100	100
評価	100	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	企業と雇用

科目基礎情報

科目番号	0015	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	授業にプリントを配布する。		
担当教員	松原 義弘		

到達目標

1．企業が労働者を雇用するにあたり有する種々の権利・義務について説明できる。
2．企業が労働者を雇用するにあたり従うべきルールについて，具体的な事例を通して説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	企業が労働者を雇用するにあたり有する種々の権利・義務について法的根拠を以て詳細に説明できる。	企業が労働者を雇用するにあたり有する種々の権利・義務について説明できる。	企業が労働者を雇用するにあたり有する種々の権利・義務について説明できない。
評価項目2	企業が労働者を雇用するにあたり従うべきルールについて，具体的な事例を通して詳細に説明できる。	企業が労働者を雇用するにあたり従うべきルールについて，具体的な事例を通して説明できる。	企業が労働者を雇用するにあたり従うべきルールについて，具体的な事例を通して説明できない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	学習目標（授業の狙い） ・目標：事例を通じて，企業における雇用のルールの解釈や運用について理解する。 ・概要：企業は労働者を雇用するにあたり様々な権利・義務関係に入る。また企業は様々なルールに従って労働者を雇用しなければならない。本講義では，企業が労働者を雇用するにあって有する権利・義務や従うべきルールについて，具体的な事例を通じて学習する。
授業の進め方・方法	教員単独による講義と，授業履修者による報告や議論で授業を進める。 学修単位のため，60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業で扱う事例や判例を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容を復習し，重要事項をノート等にまとめる。
注意点	・履修者には授業への積極的な参加（報告や議論）を求める。 ・評価は，授業での報告とレジュメの内容（50%），授業における討論のための準備(毎回の討論のためのシートの提出)と討論状況(40%)，最終レポート(10%)で行う。 ・単位認定には60点以上の評定が必要である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業のねらい，到達目標，授業計画について理解できる。
		2週	労働契約と企業の権利・義務	労働契約と企業の権利・義務について，事例を参照しながら説明できる。
		3週	労働契約に付随する企業の諸義務	労働契約に付随する企業の諸義務について，事例を参照しながら説明できる。
		4週	募集・採用	募集・採用のルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		5週	労働条件の決定と変更	労働条件の決定と変更のルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		6週	人事異動	人事異動（配転・出向等）に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		7週	賃金	賃金に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		8週	労働時間・休憩・休日	労働時間・休憩・休日に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
	4thQ	9週	安全衛生と災害補償	安全衛生と災害補償のルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		10週	労働関係の終了	労働関係の終了に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		11週	非典型雇用と同一労働同一賃金原則	同一労働同一賃金原則について，事例を参照しながら説明できる。
		12週	障害者雇用・高年齢者雇用	障害者雇用・高年齢者雇用に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		13週	労働者の職務発明と企業が支払う対価	労働者の職務発明と企業が支払う対価に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		14週	集団的労使関係	集団的労使関係に関するルールについて，事例を参照しながら説明できる。
		15週	授業のまとめ	これまでの学習内容の概略を説明できる。
		16週	成績評価・確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	発表	討論	レポート	合計
総合評価割合	50	40	10	100
基礎的能力	10	0	0	10
専門的能力	30	30	5	65
分野横断的能力	10	10	5	25

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海ビジネス演習

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	配布する資料 参考書：浅元薫哉・齋藤寛『ロシア経済の基礎知識』,ジェトロ,2012		
担当教員	岡本 勝規,海老原 毅		

到達目標

1．日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、経緯と具体的な現状、課題を理解・考察できる。
2．日本のリサイクル産業のロシアビジネスについて、経緯と現状を理解し、課題や社会的位置づけを考察できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、経緯と具体的な現状、課題を十分に理解・考察できる。	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、経緯と具体的な現状、課題を理解・考察できる。	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、経緯と具体的な現状、課題を理解・考察できない。
評価項目2	日本のリサイクル産業のロシアビジネスについて、経緯と現状、課題と位置づけを理解・考察できる。	日本のリサイクル産業のロシアビジネスについて、経緯と現状、課題と位置づけを理解できる。	日本のリサイクル産業のロシアビジネスについて、経緯と現状、課題と位置づけを理解できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-2

教育方法等

概要	環日本海ビジネスの実情を実務面も含めて理解し、考察することを目標とする。これを通じて、環日本海ビジネスへの適応力を養う。 ※実務との関係 全15週のうち、前半では製造業企業における中国・国際ビジネスの実務者が講演を行う機会を設け、後半においては、ロシアビジネスに係わる事業者への聞き取り調査を行う予定である。
授業の進め方・方法	本科目では、2つのテーマを取り上げる。第１のテーマは日本の製造業企業の中国・国際ビジネスである。環日本海地域の国際ビジネスの重要な要素として、中国の経済社会の歴史的経緯と現状、中国の経済政策の経緯と現状を把握した後、日本企業の製造業企業の中国・国際ビジネスの先行事例を学習する。その上で、該当する事例企業を１社選定して、実務者による講演及び質疑応答、関連施設見学を通し、特徴と課題の分析・考察を行う。第2のテーマはリサイクル産業におけるロシアビジネスである。ロシア向け中古車及び中古自動車部品輸出に注目し、それらの事業が生まれた経緯や現状を理解すると共に、その収益構造や社会関係資本との関連性を分析、考察する。また、事業者を訪ね聞き取り調査も行う。
注意点	本科目には外部講師の講演や施設見学などの実習があり、通常の座学とは異なる要素をもつため、受講生の積極的な姿勢が不可欠である。受講生は、評価の中に「実習への取り組み」という項目があり、実習への参加実績、適切な聴講姿勢や質疑応答への積極的参加実績が評価されることを十分に理解すること。なお、授業計画については、協力企業等の都合により変更になることがある。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスを通して、本科目の概要を理解する。
		2週	製造業企業の中国・国際ビジネス(1)	ビジネス対象の中国及び北東アジア地域について、経済及び社会の歴史的経緯と現状を理解できる。
		3週	製造業企業の中国・国際ビジネス(2)	ビジネス対象の中国について、対内・対外経済政策の経緯と現状を理解できる。
		4週	製造業企業の中国・国際ビジネス(3)	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、関連文献を読み報告できる。
		5週	製造業企業の中国・国際ビジネス(4)	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、富山県内企業の現状を理解できる。
		6週	製造業企業の中国・国際ビジネス(5)	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、実務家の報告やビジネス現場から要点を理解できる。
		7週	製造業企業の中国・国際ビジネス(6)	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、対象企業の事例状況及び考察を報告できる。
		8週	製造業企業の中国・国際ビジネス(7)	日本の製造業企業の中国・国際ビジネスについて、対象企業の事例状況及び考察を学術レポートとして作成できる。
	4thQ	9週	リサイクル産業のロシアビジネス(1)	ビジネス発生の背景が理解できる。
		10週	リサイクル産業のロシアビジネス(2)	ビジネスの収益構造と社会関係資本との関係が理解できる。
		11週	リサイクル産業のロシアビジネス(3)	ビジネスの収益構造における変化とその要因を理解できる。
		12週	リサイクル産業のロシアビジネス(4)	ロシアビジネスに係わる事業者への聞き取り調査へ向け、質問事項の作成、質問の目的の確認を行うことができる。
		13週	リサイクル産業のロシアビジネス(5)	ロシアビジネスに係わる事業者への聞き取りを通じて、現在の課題や収益構造などを具体的に理解できる。

		14週	リサイクル産業のロシアビジネス(6)	ロシアビジネスに係わる事業者への聞き取り調査結果を整理し、収益構造の特徴や留意点を見いだすことができる。
		15週	リサイクル産業のロシアビジネス(7)	日本のリサイクル産業のロシアビジネスについて、収益構造や社会関係資本との関連を取りまとめて報告できる。
		16週	レポート返却、授業アンケート、成績確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	実習への取り組み	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	30	0	10	0	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	0	10	0	60	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経営システム分析論

科目基礎情報

科目番号	0019	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	村山 雅子		

到達目標

データを蓄積するためのデータベースの概念について学習する
データベース管理システムの使用方法を学習し、データベースのしくみについて理解を深める

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	データを蓄積するためのデータベースの概念を説明できる	データを蓄積するためのデータベースの概念を不十分ながらも説明できる	データを蓄積するためのデータベースの概念を説明できない
評価項目2	データベース管理システムを使用方法を理解し活用できる。	データベース管理システムを使用できる	データベース管理システムを使用できない
評価項目3	データベースのしくみを理解し活用できる。	データベースのしくみを理解し説明できる。	データベースのしくみを説明できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-1

教育方法等

概要	データ分析は、経営管理をする上で重要な作業であり、 財務分析・予算作成・マーケティングなどの企業の様々な場面で必要となる。本講義では、データを蓄積するためのデータベースの概念について学習した上で、データベース分析ソフト・管理システムを用いてデータ分析演習を行うことにより、データベースの基礎的な機能について理解を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと
注意点	単位認定には60点以上の評定が必要である。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	シラバス説明
		2週	データと情報	データの種類と情報の役割
		3週	データベースの基礎知識	データベースのしくみ
		4週	データベースの基礎知識(2)	(1)関係データベースとSQL (2)データ型
		5週	データ管理システムの利用	MySQLの基本操作
		6週	データ管理システムの利用（２）	MySQLの基本操作（２） テーブルの作成
		7週	データ管理システムの利用（３）	MySQLの基本操作（３） データの入力・変更
		8週	データの活用	gnuplotの利用 グラフの作成
	4thQ	9週	データの活用（２）	gnuplotの利用２ グラフの作成２
		10週	データベースソフトの利用	データベースソフトの利用 ACCESSの基本操作
		11週	フォームの活用 テーブルの操作	フォームの作成と活用 クエリの作成と活用
		12週	データの集計	テーブルの集計 クロス集計
		13週	データ分析	Excelの統計分析機能でデータ分析を行う
		14週	データ分析とレポートの作成	これまでに学んだMySQL,Access,gnuplotの機能を活用してデータ分析を行い、レポートを作成する
		15週	期末試験	これまでに学んだ内容について試験を行う
		16週	成績確認	期末試験の成績確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	5	0	0	0	0	35

専門的能力	30	10	0	0	0	0	40
分野横断的能力	20	5	0	0	0	0	25

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経営戦略特論

科目基礎情報

科目番号	0020	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	ジェームズ・コリンズ他『ビジョナリー・カンパニー』日経ＢＰ社、山本七平『日本はなぜ敗れるのか』		
担当教員	宮重 徹也		

到達目標

経営戦略の基礎的理論を理解できる。
経営学書の輪読を通して、その内容を報告できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	経営戦略の基礎的理論を十分に理解できる。	経営戦略の基礎的理論を一部理解できる。	経営戦略の基礎的理論を理解できない。
評価項目2	経営学書の内容を十分に報告できる。	経営学書の内容を不十分ながらも報告できる。	経営学書の内容を報告できない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	経営戦略論の基礎的な理論について理解することを目標とした授業を実施する。 また、経営学書の輪読を通して、広く経営学や企業に対する理解を深める。 この科目は企業での勤務経験を要する教員が、その経験を活かし、経営戦略について講義形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	授業の進め方について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		2週	経営学書の概要紹介・企業の目的	経営学書の概要が理解できる。また、企業の目的が理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		3週	経営学書の報告・企業ドメイン（１）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの定義と機能について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		4週	経営学書の報告・企業ドメイン（２）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの具体的な事例と発展について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		5週	経営学書の報告・成長戦略（１）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、組織学習と市場シェアの拡大に基づく成長戦略について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		6週	経営学書の報告・成長戦略（２）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、成長戦略のタイプと多角化について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		7週	経営学書の報告・競争戦略（１）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、競争戦略や競争優位の概念について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		8週	経営学書の報告・競争戦略（２）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、産業組織論に基づく競争戦略について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
	4thQ	9週	経営学書の報告・競争戦略（３）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、源論・能力論に基づく競争戦略について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		10週	経営学書の報告・経営組織（１）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の構造について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。

		11週	経営学書の報告・経営組織（２）	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の発展について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		12週	経営学書の報告・経営管理	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、、経営戦略と経営組織の管理について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		13週	経営学書の報告・企業文化	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業文化について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		14週	経営学書のまとめ・企業倫理	経営学書の内容が理解できる。また、企業倫理について理解できる。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習しておくこと。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却、解説、授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	製品開発論

科目基礎情報

科目番号	0022	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	適宜指示。		
担当教員	塩見 浩介		

到達目標

1. 企業の製品開発について理解できる。
2. 企業の製品開発について事例報告ができる。
3. 企業の製品開発について議論ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	企業の製品開発について詳しく説明できる。	企業の製品開発について説明できる。	企業の製品開発について説明できない。
評価項目2	企業の製品開発について高度な事例報告ができる。	企業の製品開発について事例報告ができる。	企業の製品開発について事例報告ができない。
評価項目3	企業の製品開発について高度な議論ができる。	企業の製品開発について議論ができる。	企業の製品開発について議論ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本講義では、これまでの座学の内容を踏まえて、企業の製品開発について事例研究ならびに議論を行う。 この事例研究を通じて、製品開発を客観的に分析する力を身につける。
授業の進め方・方法	最初に座学において，企業の製品開発について学習する。 次に，学生諸君が選択した企業の製品開発について事例報告を行い，それについて議論を行う。 報告と議論内容を加味して成績評価を行う。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておくこと （授業外学習・事後）授業内容の復習を行うこと
注意点	IB2前期の「ビジネス会計論」受講希望者は受講すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	本講義の概要を説明する。
		2週	企業の製品開発とは①	企業の製品開発について学習する。
		3週	企業の製品開発とは②	企業の製品開発について学習する。
		4週	企業の製品開発とは③	企業の製品開発について学習する。
		5週	事例報告と議論①	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		6週	事例報告と議論②	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		7週	事例報告と議論③	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		8週	事例報告と議論④	学生が報告したテーマについて議論を行う。
	4thQ	9週	事例報告と議論⑤	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		10週	事例報告と議論⑥	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		11週	事例報告と議論⑦	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		12週	事例報告と議論⑧	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		13週	事例報告と議論⑨	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		14週	まとめ	これまでの報告内容と議論の結果を踏まえて，総合ディスカッションを行う。
		15週	期末試験	これまでの議論・報告内容をもとに成績評価する。
		16週	総括	授業のまとめ。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告	授業への参加態度	その他	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報処理学

科目基礎情報

科目番号	0023	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない。授業中に資料または教員作成のプリントを配布する。		
担当教員	秋口 俊輔		

到達目標

1．Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。
2．VBAを用いてマクロを作成することができる。
3．感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関するより専門的な分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができない。
評価項目2	VBAを用いて複雑なマクロを作成することができる。	VBAを用いてマクロを作成することができる。	VBAを用いてマクロを作成することができない。
評価項目3	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて十分に説明できる。	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについておよそ説明できる。	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-1

教育方法等

概要	取り扱うべき情報が多様にわたる今日では，様々な情報を適切に処理する技能が必要となる。本講義では、様々なデータ計測や制御に必要な技能の習得を目標とし、表計算ソフトウェアを用いたグラフ表示や統計解析などによりデータ処理を行う。また、感性的な情報処理を行うための前段階として、コンピュータ上で曖昧な情報を取り扱うための一手法についても学習する。
授業の進め方・方法	講義を主とし、適時演習問題を織り交ぜて実施する。
注意点	理解を深めるため、適宜演習を行う。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イントロダクション	本講義科目における学習内容、方法を説明できる。
		2週	コンピュータを用いた情報処理（1）	Excelを用いた簡単な処理ができる。
		3週	コンピュータを用いた情報処理（2）	Excelで基本統計量を扱うことができる。
		4週	コンピュータを用いた情報処理（3）	Excelでさまざまなデータの可視化を行うことができる。
		5週	コンピュータを用いた情報処理（4）	プログラミング言語を用いて基礎的なコードを作成することができる。
		6週	コンピュータを用いた情報処理（5）	マクロとは何かについて説明できる。
		7週	コンピュータを用いた情報処理（6）	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。
		8週	コンピュータを用いた情報処理（7）	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。
	2ndQ	9週	コンピュータを用いた情報処理（8）	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。
		10週	演習	プログラミング言語・excelを用いたデータ処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。
		11週	感性的な情報処理手法（1）	人間の持つ曖昧さをコンピュータ上で取り扱う上で注意すべき事項について説明できる。
		12週	感性的な情報処理手法（2）	コンピュータ上で曖昧さを含んだ情報を取り扱う手法について説明できる。
		13週	感性的な情報処理手法（3）	コンピュータを用いた感性的な情報処理について説明できる。
		14週	演習	感性的な情報処理手法を用いた情報処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。
		15週	期末試験	期末試験
		16週	期末試験の解答	試験返却

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用数学特論

科目基礎情報

科目番号	0024	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜プリントを配布する.		
担当教員	櫻井 秀人		

到達目標

いろいろな特殊関数を理解し，工学的応用力を身につける.
他分野における特殊関数の活用を学び，計算能力を身につける.
JABEEの評価基準に達するには，６０点以上が必要である.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ガンマ関数・ベータ関数の性質をよく理解し、それらに関する問題を解くことができる。	ガンマ関数・ベータ関数の性質を理解し、それらに関する基本的な問題を解くことができる。	ガンマ関数・ベータ関数に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	ベッセル関数の性質をよく理解し、それに関する問題を解くことができる。	ベッセル関数の性質を理解し、それに関する基本的な問題を解くことができる。	ベッセル関数に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	ルジャンドル多項式の性質をよく理解し、それに関する問題を解くことができる。	ルジャンドル多項式の性質を理解し、それに関する基本的な問題を解くことができる。	ルジャンドル多項式に関する問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-1

教育方法等

概要	微分方程式の解として登場する種々の特殊関数について解説する. その知識をもとに，物理学・工学分野に登場する微分方程式をより深く理解し，解法のテクニック等を身につける.
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと
注意点	微分積分の基本的な知識を仮定する. 本科目では，60点以上の評価で単位を認定する. 学修単位のため，60時間相当の授業外学習が必要である. 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく. 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く.

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	ガイダンスを行い，評価・授業進行等についての説明を行う. 今後の授業に必要な基礎知識を確認する.
		2週	微分積分からの準備	今後の講義に必要となる微分積分の基礎を確認する.
		3週	微分積分からの準備	第２回に引き続き，微分積分の理論について学ぶ.
		4週	複素関数論からの準備	今後の講義に必要となる複素関数論について学ぶ.
		5週	級数展開	今後の講義に必要となる級数展開について学ぶ.
		6週	ガンマ関数とその性質	ガンマ関数のいくつかの定義が同値であることを示す.
		7週	ガンマ関数とその性質	ガンマ関数が満たすいろいろな性質を考察する.
		8週	ガンマ関数とベータ関数	ベータ関数とその性質，ガンマ関数との関係を学ぶ.
	2ndQ	9週	直行多項式・直行関数	直交多項式・直行多項式を定義する.
		10週	ベッセル関数	ベッセル関数が満たす性質を学ぶ.
		11週	ルジャンドルの多項式	ルジャンドルの多項式を複数の方法で定義する.
		12週	ルジャンドルの多項式の性質	ルジャンドルの多項式が満たす性質を学ぶ.
		13週	直交多項式の応用	直交多項式が満たす微分方程式について学ぶ.
		14週	複素変数の微分方程式の級数解	複素変数の微分方程式の級数解について学ぶ.
		15週	期末試験	第1回から第14回までの内容に関して試験を行う.
		16週	成績評価・確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用物理学特論

科目基礎情報

科目番号	0025	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	参考書：「量子力学・統計力学入門」星野公三・岩松雅夫 共著（裳華房）		
担当教員	大竹 由記子		

到達目標

1．シュレーディンガー方程式を用いて，井戸型ポテンシャルの問題を解くことができる。
2．シュレーディンガー方程式を用いて，階段型ポテンシャルへの入射の問題を解くことができる。
3．ミクロカノニカル集合の考え方を用いて，エントロピーおよび熱力学諸量を求めることができる。
4．カノニカル集合の考え方を用いて，自由エネルギーおよび熱力学諸量を求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	シュレーディンガー方程式を用いて，有限深さの井戸型ポテンシャルの問題を解くことができる。	シュレーディンガー方程式を用いて，無限深さの井戸型ポテンシャルの問題を解くことができる。	シュレーディンガー方程式を用いて，無限深さの井戸型ポテンシャルの問題も解くことができない。
評価項目2	シュレーディンガー方程式を用いて，2段以上の階段型ポテンシャルへの入射の問題を解くことができる。	シュレーディンガー方程式を用いて，1段の階段型ポテンシャルへの入射の問題を解くことができる。	シュレーディンガー方程式を用いて，1段の階段型ポテンシャルへの入射の問題も解くことができない。
評価項目3	ミクロカノニカル集合の考え方を用いて，一般的な系のエントロピーおよび熱力学諸量を求めることができる。	ミクロカノニカル集合の考え方を用いて，自由粒子および調和振動子のエントロピーおよび熱力学諸量を求めることができる。	ミクロカノニカル集合の考え方が分かっておらず，エントロピーおよび熱力学諸量を求めることができない。
評価項目4	カノニカル集合の考え方を用いて，一般的な系の自由エネルギーおよび熱力学諸量を求めることができる。	カノニカル集合の考え方を用いて，自由粒子および調和振動子の自由エネルギーおよび熱力学諸量を求めることができる。	カノニカル集合の考え方が分かっておらず，自由エネルギーおよび熱力学諸量を求めることができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-1

教育方法等

概要	物理学および物理学を基礎とする工学の種々の分野（半導体等固体物性工学，レーザー技術，低温技術 等）で応用されていて，現代物理学の基礎として重要な量子力学と統計力学について，基本的な概念や原理を数学的に定式化し，応用例を含めながら量子力学および統計力学の基本的な知識を習得させる.
授業の進め方・方法	学生の理解度に応じて，授業計画を変更することがある．教員単独で，講義および演習を実施する. 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと.
注意点	学修単位のため, 60時間相当の授業外学習が必要である. 授業外学習・事前：授業内容を予習する. 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く. 課題については, レポートとして評価する. 定期試験60点，平常点（レポート）40点とし，合計60点以上を合格とする.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	光と物質の波動性と粒子性	ガイダンス，コンプトン散乱と光量子仮説，ド・ブロイの物質波，二重スリットの実験
		2週	量子力学の体系Ⅰ	波動関数，エルミート演算子，交換関係，シュレーディンガー方程式
		3週	量子力学の体系Ⅱ	重ね合わせの原理，不確定性関係
		4週	シュレーディンガー方程式の解法Ⅰ	井戸型ポテンシャルの場合（解説）
		5週	シュレーディンガー方程式の解法Ⅱ	井戸型ポテンシャルの場合（演習）
		6週	シュレーディンガー方程式の解法Ⅲ	階段型ポテンシャルの場合（解説）
		7週	シュレーディンガー方程式の解法Ⅳ	階段型ポテンシャルの場合（演習）
		8週	シュレーディンガー方程式の解法Ⅴ	調和振動子の場合（解説）
	2ndQ	9週	統計力学Ⅰ	ミクロカノニカル集合（解説）
		10週	統計力学Ⅱ	ミクロカノニカル集合（演習）
		11週	統計力学Ⅲ	カノニカル集合（解説）
		12週	統計力学Ⅳ	カノニカル集合（演習）
		13週	統計力学Ⅴ	グランドカノニカル集合（解説）
		14週	統計力学Ⅵ	グランドカノニカル集合（演習）
		15週	期末試験	講義中に扱った問題の類題を出題する.
		16週	成績確認等	成績評価を確認する.

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	数学・物理学演習

科目基礎情報

科目番号	0026	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	伊藤 尚		

到達目標

1. フーリエ変換，ラプラス変換およびそれらに関する特殊関数について理解し，諸計算が出来るようにする.
2. 工学分野に登場する種々の物理学に対して数学のテクニックを用いて解法出来るようにする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	フーリエ変換・ラプラス変換およびそれらに関する特殊関数について正しく理解し，応用問題を解くことが出来る.	フーリエ変換・ラプラス変換およびそれらに関する特殊関数について理解し，基本的な問題を解くことが出来る.	フーリエ変換・ラプラス変換およびそれらに関する特殊関数について理解しおらず，基本的な問題を解くことが出来ない.
評価項目2	工学分野に登場する物理学に対して数学のテクニックを適切に用いて，応用問題を解くことが出来る.	工学分野に登場する物理学に対して数学のテクニックを用いて，基本的な問題を解くことが出来る.	工学分野に登場する物理学に対して数学のテクニックを用いて，基本的な問題を解くことが出来る.

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-1

教育方法等

概要	工学的専門知識を学ぶ上で必要となる数学および物理学の内容について、演習を含めて解説する.
授業の進め方・方法	数学については微積分の簡単な復習から始めて、フーリエ変換・ラプラスへ変換および特殊関数の定義と諸性質について演習を交えて学ぶ。物理学については、古典力学と量子力学の入門的内容に対して解説・演習を行う。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく. （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く.
注意点	単位認定には、60点以上の評定が必要です。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	数学復習：本講義を受けるにあたり必要となる微分方程式の復習を行う。	古典力学における運動方程式を微分方程式として扱うことが出来る.
		2週	フーリエ級数展開：フーリエ級数展開の定義について解説し，演習を行う.	フーリエ級数展開の定義について理解し，説明することが出来る. フーリエ級数展開を用いて諸問題を解くことが出来る.
		3週	パーセバルの等式とゼータ関数：パーセバルの等式とゼータ関数について解説し，演習を行う.	パーセバルの等式について理解し，説明することが出来る. パーセバルの等式を用いてゼータ関数の値を求めることが出来る.
		4週	フーリエ級数展開と波動方程式：フーリエ級数展開を用いた波動方程式の解法について解説し，演習を行う.	波動方程式について理解し，説明することが出来る. フーリエ級数展開を用いて波動方程式を解法することが出来る.
		5週	フーリエ級数展開と拡散方程式（1）：フーリエ級数展開を用いた拡散方程式の解法について解説し，演習を行う.	拡散方程式について理解し，説明することが出来る. フーリエ級数展開を用いて拡散方程式を解法することが出来る.
		6週	フーリエ級数展開と拡散方程式（2）：フーリエ級数展開を用いた拡散方程式の解法について解説し，演習を行う.	拡散方程式について理解し，説明することが出来る. フーリエ級数展開を用いて拡散方程式を解法することが出来る.
		7週	中間試験	
		8週	中間試験の返却	
	4thQ	9週	フーリエ級数展開からフーリエ変換への拡張	フーリエ級数展開から複素フーリエ級数展開への拡張について理解し，説明することが出来る. 複素フーリエ級数展開からフーリエ変換への拡張について理解し，説明することが出来る.
		10週	フーリエ変換からラプラス変換へ：フーリエ変換からラプラス変換への拡張について解説し，演習を行う.	フーリエ変換からラプラス変換への拡張について理解し，説明することが出来る. ラプラス変換表に出てくる代表的な変換について理解し，説明することが出来る.
		11週	ラプラス変換と微分方程式（1）：ラプラス変換を用いた線形微分方程式の解法について解説し，演習を行う.	ラプラス逆変換が出来る. ラプラス変換を用いた線形微分方程式の解法が出来る.
		12週	ラプラス変換と微分方程式（1）：ラプラス変換を用いた線形微分方程式の解法について解説し，演習を行う.	ラプラス逆変換が出来る. ラプラス変換を用いた線形微分方程式の解法が出来る.
		13週	ラプラス変換とガンマ関数：ラプラス変換とガンマ関数の関係について解説し，演習を行う.	ガンマ関数の定義について理解し，説明することが出来る. 代表的なガンマ関数の値を求めることが出来る.

		14週	特殊関数の物理学への応用：ゼータ関数とガンマ関数の関係について解説し，物理分野への応用について解説する.	ゼータ関数とガンマ関数の関係について理解し，説明することが出来る. 特殊関数を物理分野へ応用し，諸問題を解くことが出来る.
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の返却，成績確認，授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	35	0	0	0	15	0	50
専門的能力	35	0	0	0	15	0	50

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップＢ（国外）

科目基礎情報

科目番号	0027	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 3
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	3
教科書/教材	専攻科インターンシップ実施要項を配付		
担当教員	古山 彰一,長谷川 博,経田 僚昭		

到達目標

学習目標(授業の狙い)
(学習教育目標) A1,A2,D1,E2 (評価基準)a,b,f,g 制御工学や情報工学系の技術者として国際的視点で事象を捉え続ける能力を身に付け(a,g)、母国だけでなく地球にやさしい視点で判断し(b)、説明できる能力を養う(f)ことを目標とする。そのために約１ヵ月の海外における語学研修／関連企業訪問を行う。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1：異文化の理解	現地でのコミュニケーションを含め、異文化の理解が十分になされた。	異文化の理解がなされた。	異文化への理解がなされなかった。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	･制御工学や情報工学関係を含む特定の国際問題についてその解決案を説明できる。(a,g) ･制御工学や情報工学を含む特定の国際問題について倫理的な視点から説明ができる。(b,f)
授業の進め方・方法	プレゼンテーション(約70%)とレポート(約30%)により総合的に評価する。
注意点	研修先機関の規則を遵守すると共に、研修中の事件・事故に注意する

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	説明会	海外インターンシップの目的，意義について説明するとともに，過年度の実施状況，参加にあたっての注意点などを周知する。
		2週	準備	書式にしたがって申込書，誓約書等を準備し，期日までに提出させる。
		3週	渡航	海外への渡航にあたり，往路引率教員の指示で手続きや乗り継ぎを体験する。
		4週	インターンシップの実施	大学およびその提携企業等においてインターンシップに参加する。期間中は現地に滞在し，生活することを通して経験にもとづいて異文化を理解する。
		5週	報告	終了後，報告書を作成し，提出する。インターンシップ報告会において発表をする。
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
取り組み方	0	100	0	0	0	0	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップＡ（国内）

科目基礎情報

科目番号	0028	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	専攻科インターンシップ実施要項		
担当教員	由井 四海,長谷川 博		

到達目標

技術者として国際的視点で事象を捉え続ける能力を身に付け、母国だけでなく地球にやさしい視点で判断し、説明できる能力を養うことを目標とする。そのために２週間以上の日本企業研修を行う。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	研修先企業での実習への参加を通して，国際的視点で事象を捉え、判断し、説明することが十分になされた。	研修先企業での実習への参加を通して，国際的視点で事象を捉え、判断し、説明することがなされた。	国際的視点で事象を捉え、判断し、説明することができなかった。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	･制御工学や情報工学関係を含む特定の国際問題についてその解決案を説明できる。(a,g) ･制御工学や情報工学を含む特定の国際問題について倫理的な視点から説明ができる。(b,f)
授業の進め方・方法	プレゼンテーションとレポートにより評価する。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	インターンシップ先の決定	履修希望学生は、受け入れ先と相談の上、担任の承認を得た後、申請書にて申請し、許可を得る.
		2週	準備	必ず学生教育研究災害保険（インターンシップコース）に加入すること.
		3週	準備	指定された書式のインターンシップ申込書，誓約書を担任に提出すること.
		4週	インターンシップ期間中	学生はインターンシップ業務に従事し、所定の書式に毎日の業務記録を作成する．また，業務指導担当者の所見をいただくこと.
		5週	インターンシップ終了後	インターンシップ業務終了時には報告書を作成する．そして，担任に提出する.
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	地域社会研究

科目基礎情報

科目番号	0035	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	使用しない		
担当教員	横田 数弘		

到達目標

産業論の基礎を学ぶとともに、北陸地域の実状を把握することに努める。特産物や地場産業や特色ある観光資源など、地域的特性を事実として、客観的に把握することをめざしていく。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代の産業に関する基礎知識を習得した上で、今後の日本経済の展望を自分なりに描くことができる。	現代の産業に関する基礎知識を習得している。	現代の産業に関する基礎知識を習得することができない。
評価項目2	富山県や北陸地域の地域事情を把握した上で、今後の展望を自分なりに描くことができる。	富山県や北陸地域の地域事情を把握している。	富山県や北陸地域の地域事情を把握することができない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-1

教育方法等

概要	（学習教育目標）A1 （評価基準）a 産業論の基礎・基本を学ぶことと、近現代以降の北陸地域の態様変化を追究することをねらいとした科目である。 グローバル化が進展するなかで、地域社会は如何に変化してきたのか、また、今後どのように変化していくのかを理論的・歴史的に検討してみたい。（a）
授業の進め方・方法	教員単独で実施による講義形式を中心とするが、演習や地域巡検も実施する。地域巡検については、県内をフィールドに授業時間外に別途実施する予定である。単位認定に際しては、レポート提出（２種類で４割配点）と授業最終回の試験（６割配点）を受けることが条件となる。授業の詳細（内容・計画）は受講生と相談の上、最終的に決定する（シラバスの変更も行う）。
注意点	［授業改善策］ 産業論の講義を中心とするが、具体的事実を把握・理解できるよう、授業時に配慮したい。実地調査（巡検）を授業時及び授業外（休日に設定することもあり得る）に行い、座学で得た知識を「応用」したいと考えている。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	はじめに（ガイダンス）	・地域を産業の視点で学んでいく意義 ・地域を客観的・相対的に把握することの意味
		2週	●実地調査（１）	射水市海老江地区・堀岡地区・下村地区の巡検
		3週	産業論の基礎（１）	①産業構造・産業構成の基本理論 ②第１次産業（農林水産業）
		4週	産業論の基礎（２）	③第２次産業（加工業） ④第３次産業（サービス業）
		5週	●実地調査（２）	富山県内巡検（氷見市、南砺市、黒部市など）巡検
		6週	北陸の地域特性（１）	北陸地域の自然地理的特性・人文的特徴
		7週	北陸の地域特性（２）	北陸地域の産業面における特色
		8週	●実地調査（３）	富山県内巡検（氷見市、南砺市、黒部市など）巡検
	2ndQ	9週	地域産業論（１）	富山県地域における産業の特色（歴史的把握）
		10週	地域産業論（２）	特産物
		11週	●実地調査（４）	富山県内巡検（氷見市、南砺市、黒部市など）巡検
		12週	地域産業論（３）	地場産業
		13週	地域産業論（４）	観光資源
		14週	●実地調査（５）	富山県内巡検（氷見市、南砺市、黒部市など）巡検
		15週	期末試験	実施する
		16週	おわりに	成績評価・確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	15	0	35
専門的能力	20	0	0	0	15	0	35
分野横断的能力	20	0	0	0	10	0	30

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	健康科学

科目基礎情報

科目番号	0040	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	大橋 千里		

到達目標

(1)身体の生理学的知見を理解することができる。
(2)自らの身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりについて主体的に捉えることができる。
(3)自らのライフスタイルにあった運動プログラムを科学的に作成し、実践するための態度を育成することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題について深く理解することができ、その解決策を検討することができる。	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題について理解することができる。	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題についての理解が十分ではない。
評価項目2	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりについて主体的に捉えることができる。	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりの必要性を理解している。	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりの必要性を十分に理解していない。
評価項目3	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成し、実践するための態度が身についている。	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成することができる。	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成することができない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-1

教育方法等

概要	(1)目標 運動が健康・体力に及ぼす生理的影響を学び、健康づくりを行うための基礎理論を習得する。さらに、自らに適した運動プログラムを作成し、実践する態度を身につける。これらを通して、健康的な生活を営む技術者の育成を図る。 (2)概要 現代の病気の主役となっている生活習慣病は、運動・栄養・休養・ストレス等、日常生活の送り方が大きく影響している。運動は、体力を向上し、健康を増進させることから、運動・健康に関する知識を教養として学習する。
授業の進め方・方法	3回の実験・実習に加え、歩数計を用いた2週間の身体活動量の測定や脚力測定を実施する。また、授業の最後には1人10分程度のプレゼンテーションを実施する。 事前に行う準備学習：講義および実技の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	実験や測定を実施する場合は、運動ができる服装で授業に参加すること。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習する。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題について考え、課題についてはレポートとして評価する。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスの説明
		2週	簡易スタミナテストの測定、評価	簡易な方法を用いて自らの持久的能力を測定、評価する。
		3週	健康に関する概念（１）	現代の社会的背景を踏まえて健康問題について考える。
		4週	健康に関する概念（２）	生理学的知見から健康について捉える。
		5週	運動と体力	運動が体力に及ぼす影響、実践的なトレーニング方法について学ぶ。
		6週	運動と生活習慣病	運動不足と生活習慣病との関連について理解する。
		7週	運動療法とその効果	生活習慣病改善のための運動療法の方法、効果について学ぶ。
		8週	日常生活身体活動量	自らの日常生活身体活動量を予測した上で、IT機器を用いて測定を開始する。
	4thQ	9週	健康的な運動の実践	運動種目、強度、時間の目標設定を行い、運動を実施する。
		10週	日常身体活動量の評価	測定した身体活動量のデータから、自らの日常生活での身体活動を評価する。
		11週	身体活動と健康	「健康づくりのための身体活動指針2013」の理論、実践方法について理解を深める。 2回目の身体活動量の測定を開始する。
		12週	健康的な運動の実践	運動種目、強度、時間の目標設定を再度行い、運動を実施する。
		13週	日常身体活動量の再評価	前回の身体活動量のデータと今回のデータを比較検討する。
		14週	プレゼンテーション作成	自らのライフスタイルに合った運動プログラムを作成し、それに関するプレゼンを作成する。

		15週	プレゼンテーション	1人10分程度のプレゼンテーションを行う。	
		16週	プレゼンテーション 授業評価アンケートの実施	Powerpointを使って1人10分程度のプレゼンテーションを行う。 授業評価アンケートの実施	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	0	20
専門的能力	0	40	0	0	0	20	60
分野横断的能力	0	10	0	0	0	10	20

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	産業特論

科目基礎情報

科目番号	0041	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜レジュメを配付する／参考図書：長谷川博『日本産業論』，ブイツーソリューション，2021		
担当教員	長谷川 博		

到達目標

1.現代日本産業の背景(継続企業）について，十分に理解し，説明できる。
2.現代日本産業の背景(日本的企業経営）について，十分に理解し，説明できる。
3.産業に携わる視点について，十分に理解し，説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代日本産業の背景（継続企業）について，十分に理解し，説明できる。	現代日本産業の背景（継続企業）について，理解し，説明できる。	現代日本産業の背景（継続企業）についての理解が不十分で，説明できない。
評価項目2	現代日本産業の背景（日本的企業経営）について，十分に理解し，説明できる。	現代日本産業の背景（日本的企業経営）について，理解し，説明できる。	現代日本産業の背景（日本的企業経営）についての理解が不十分で，説明できない。
評価項目3	産業に携わる視点について，十分に理解し，説明できる。	産業に携わる視点について，理解し，説明できる。	産業に携わる視点についての理解が不十分で，説明できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	受講者が培ってきた専門性は多様だが，将来，技術者として，また現場の管理責任者として，あるいは企業全体の経営者としてマネジメントに携わり，産業の発展を担うことになろう。本講義ではそれに必要な社会科学的知識，すなわち産業や企業の現状と課題，その背景となる社会システムや経済動向をどう捉え，その底流に流れる考え方を学ぶことを通じて，ユーザーたる顧客やその背後にある社会や産業，そして企業を見る目を養えるように，自らの技術と社会の関わりの方向を探るための基礎的な知識を修得するものである。各項目の理解には，提示した題材についてのディスカッションなどを通して，思考を深化させるとともに，より具体的な課題解決に向けた実践的能力を養う。
授業の進め方・方法	授業内での報告と討議における参加状況，アウトプットとしてのディスカッション，提出レポート，にもとづいて総合的に評価する。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	概要に掲げた通り、受講生が将来、エンジニアあるいはまたは職責が拡大し経営管理に携わる立場になっても、大局的な視点を持てる素養としての社会科学的な知識と考え方を修得することを目標とする。JABEEの評価基準を満たすには，60点以上必要。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。課題についてはレポートとして評価する。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス 大学生の教養	大学生の基礎教養とは何かについて理解し，説明できる。
		2週	社会科学へのアプローチ	技術者として，またはビジネス人としての社会科学とは何かについて理解し，説明できる。
		3週	現代日本産業の背景（継続企業）	老舗論（1） 継続企業としての老舗について理解し，説明できる。
		4週	現代日本産業の背景（継続企業）	老舗論（2） 継続企業としての老舗について理解し，説明できる。
		5週	現代日本産業の背景（継続企業）	継続企業の背景（1） 継続企業の背景について理解し，説明できる。
		6週	現代日本産業の背景（継続企業）	継続企業の背景（2） 継続企業の背景について理解し，説明できる。
		7週	現代日本産業の背景（日本的企業経営）	日本的資本主義（1） 日本の資本主義の勃興期について理解し，説明できる。
		8週	現代日本産業の背景（日本的企業経営）	日本的資本主義（2） 利益と資本について理解し，説明できる。
	2ndQ	9週	現代日本産業の背景（日本的企業経営）	日本的資本主義（3） 家訓と大福帳について理解し，説明できる。
		10週	現代日本産業の背景（日本的企業経営）	日本的資本主義（4） 信頼と雇用について理解し，説明できる。
		11週	現代日本産業の背景（日本的企業経営）	日本的資本主義（5） 日本社会と日本企業のガバナンスについて理解し，説明できる。
		12週	産業に携わる視点（資本主義の精神）	資本主義の精神 日本の勤労観について理解し，説明できる。
		13週	産業に携わる視点（経済社会の捉え方）	生産経済社会 獲得経済社会から生産経済社会への移行について理解し，説明できる。

		14週	産業に携わる視点（これからの社会と産業）	信用社会と精神性 信用社会における感性，暗黙知，共生について理解し，説明できる。
		15週	期末試験	ディスカッション，既習内容にもとづくレポート提出により評価
		16週	期末試験の解答	試験返却

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	10	0	0	0	10	20
分野横断的能力	0	20	0	0	0	20	40

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海文化論

科目基礎情報

科目番号	0042	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	高階秀爾『西洋美術史』、中澤敦夫・宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・イコン』		
担当教員	宮崎 衣澄		

到達目標

西洋美術史におけるイコン、ロシア文化におけるイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。
また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。
ＪＡＢＥＥの評価基準を満たすには、60点以上必要である。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	西洋美術史の流れとイコンについて理解できている	西洋美術史の流れとイコンについて、おおよそ理解できている	西洋美術史の流れとイコンについて、理解できていない
評価項目2	ロシア文化におけるイコンについて理解できている	ロシア文化におけるイコンについて大よそ理解できている	ロシア文化におけるイコンについて理解できていない
評価項目3	明治期の日露交流史について理解できている	明治期の日露交流史について大よそ理解できている	明治期の日露交流史について理解できていない

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-1

教育方法等

概要	環日本海地域のうち、特にロシアに注目し、ロシアの宗教とその表象であるイコンに焦点をあてる。 イコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。 ロシア正教は明治期より日本で宣教活動を行っていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。
授業の進め方・方法	講義および発表
注意点	単位認定には、６０点以上の評定が必要です。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 美術史におけるイコン	美術史におけるイコンの歴史的発展について学習する
		2週	美術史概論①	西洋美術史の流れを理解する
		3週	美術史概論②	西洋美術史の流れを理解する
		4週	美術史概論③	西洋美術史の流れを理解する
		5週	美術史概論④	西洋美術史の流れを理解する
		6週	美術史概論⑤	西洋美術史の流れを理解する
		7週	美術史概論⑥	西欧美術史の流れを理解する
		8週	美術館実習事前学習	美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習する。
	4thQ	9週	美術館実習	富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理解を深める
		10週	アートと街づくり	富山を中心に、アートによるまちづくりの事例について学ぶ
		11週	ロシアと正教会	ロシア史における宗教について、正教会を中心に概観する
		12週	ロシアとイコン①	ロシア史における宗教・イコンの役割と歴史について概観する
		13週	ロシアとイコン②	ロシア史における宗教・イコンの役割と歴史について概観する
		14週	日本の正教会	明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教会とその発展について学ぶ
		15週	報告会	美術作品をとりあげて、発表を行う
		16週	期末試験	学習内容が理解できているか確認する

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	20	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	生産開発システム

科目基礎情報

科目番号	0030	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	基礎生産加工学（朝倉書店）		
担当教員	山本 桂一郎		

到達目標

生産開発システムを理解し，演習問題を解くことが出来る。
生産システムを理解し，生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することが出来る。
JABEEの評価基準に達するには，60点以上が必要である.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
生産開発システムを理解し，演習問題を解く	生産開発システムを理解し，演習問題を解くことが出来る。	生産開発システムを理解出来る。	生産開発システムを理解し，演習問題を解くことが出来ない。
生産システムを理解し，生産技術がどのような製品に適用されているかを論理的に発表する	生産システムを理解し，生産技術がどのような製品に適用されているかを論理的に発表することが出来る。	生産システムを理解し，生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することが出来る。	生産システムを理解し，生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することが出来ない。
生産に伴う品質とコストについてLCAの観点からの知識を得る	生産に伴う品質とコストについてLCAの観点から説明出来る	生産に伴う品質とコストについてLCAの観点から簡単に説明出来る	生産に伴う品質とコストについてLCAの観点から簡単に説明出来ない

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	エンジニアとして必要な生産開発システムの基礎について述べる。まず，材料加工技術の歴史と産業革命以後の生産形態，加工能率・工程管理を概説する。本講義時間にて生産全般を教授するためには，一方的な講義形式では十分な時間がないため，学生が能動的に取り組めるよう，各自が異なるモノの生産方法をまとめ，それを発表することによって，受講者全体で共有する手法をとる。 この科目は企業で半導体製造装置の質量流量計の設計を担当していた教員が，その経験を活かし，開発から生産，流通までの流れについて講義形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	教員単独による講義＋演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと
注意点	単位認定には，６０点以上の評定が必要です。宿題・レポートも評価に加える。 学修単位のため, 60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習する。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く. 課題については, レポートとして評価する。 【授業評価アンケート改善点】 専攻，学年をまたいで行う講義のため，専門用語についてはその都度確認を行う．動画や写真を出来るだけ多く提示する.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	生産開発システムを学ぶ理由	シラバスによる授業の説明 品質の高い製品とは，その技術と設備について ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		2週	生産加工の概要	身近な製品の作り方と生産方法の選択について ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		3週	代表的な生産システムの概説	代表的な生産システムについて説明する ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		4週	ものづくりに必要な考え方（開発，設計，生産）	開発から出荷までの流れを説明する ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		5週	コストと品質	ものづくりのコストと品質の考え方について説明する ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		6週	コストと品質	ものづくりのコストと品質の考え方について説明する ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		7週	各自のテーマ設定と調査，5分スピーチ	個別テーマ分析。振り返り５分スピーチ ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		8週	各自のテーマ設定と調査，5分スピーチ	個別テーマ分析。振り返り５分スピーチ ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
	4thQ	9週	各自のテーマ設定と調査，5分スピーチ	個別テーマ分析。振り返り５分スピーチ ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う

		10週	グループワーク，意見交換による整理	グループによるディスカッション ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		11週	グループワーク，意見交換による整理	グループによるディスカッション ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		12週	各自のテーマのブラッシュアップ	個別テーマ分析 ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		13週	各自のテーマのブラッシュアップ	個別テーマ分析 ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		14週	成果発表による知識の共有	個別成果発表によりクラス内で共有する ・事前に授業内容を予習しておく ・事後に授業内容に関する課題を行う
		15週	期末試験	講義を通しての総合的な問題 期末試験までに，指定の課題のレポートと各自テーマに関するレポートを提出する。
		16週	期末試験返却	模範解答と採点基準の提示，成績確認，授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	0	10
専門的能力	30	10	10	0	0	0	50
分野横断的能力	20	10	10	0	0	0	40

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	地球科学概論

科目基礎情報

科目番号	0031	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	配布資料		
担当教員	福留 研一		

到達目標

・地球流体力学に関する基礎的な式を理解する。
・地球流体力学の基礎式により簡単な現象を表現できる。
・上記の考察により地球流体の性質を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地球流体の概念を理解し解説できる	地球流体の概念を理解できる	地球流体の概念を理解できない
評価項目2	地球流体力学の基礎式を用いてより複雑な現象を表現できる	地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できる	地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できない
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	本講義では大気や海洋で起こる現象を、地球流体力学の基礎的な手法（現象の定式化など）により学び、船舶の運行や漁業、さらに日常生活に対する気候の影響についての基礎的理解を深めることを目的とする。 ＊実務との関係 この科目は大学の研究所および水産系の研究所・現業機関において海流や潮汐といった地球流体の運動の研究および、それらが海洋の物理・生物環境に及ぼす問題の解決についての研究開発を担当していた教員が、その経験を活かし、地球環境流体の物理について授業を行うものである。
授業の進め方・方法	講義およびレポート
注意点	これまで学習した、流体力学、物理（力学）、数学で学習した解析の基礎を理解しておくこと。特に、基礎的な微分・積分は覚えておくこと。この教科の内容が理解できない場合，簡単なことでもいいので，疑問を感じたら質問するように心がける。 また，学生の理解度を検討しながら課題内容を決めたい。 評価が60点に満たない者は追認試験願の提出により追認プログラムを受けることができる。追認プログラムの結果，単位の修得が認められた者にあたっては，その評価を60点とする。なお，追認プログラムは，不認定となった内容によって異なるので確認すること。 授業計画は，学生の理解度に応じて変更する場合がある。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 海洋・気象	地球流体力学の考え方，海洋・気象の特性について理解する
		2週	基礎方程式(1)	連続の式、運動方程式などの導出を理解する
		3週	基礎方程式(2)	熱塩分輸送式などの導出を理解する
		4週	基礎方程式(3)	乱流、運動方程式の近似、ロスビー数について理解する
		5週	大気・海洋間における境界条件	太陽放射，熱バランス，塩分バランス，運動量バランスについて理解する
		6週	地衡流(1)	地衡流バランス，スベルドラップの関係について理解する
		7週	地衡流(2)	順圧流について理解する
		8週	中間テスト	これまでのまとめ
	4thQ	9週	惑星境界層(1)	境界層の基礎方程式、大気と海洋の境界層について理解する
		10週	惑星境界層(2)	海底境界層，エクマン輸送について理解する
		11週	順圧海洋循環(1)	エクマンパンピングについて理解する
		12週	順圧海洋循環(2)	西岸境界流について理解する
		13週	傾圧海洋循環(1)	圧力勾配、密度・水温・塩分の関係について理解する
		14週	傾圧海洋順環(2)	水温・塩分場における地衡流速度、海洋渦，ロスビー波などのその他の現象について理解する
		15週	レポート発表	各自が興味を持った地球流体の現象について調べ，調査結果を報告し，相互に評価する
		16週	成績評価・確認 授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	30	0	0	40	100
基礎的能力	0	10	10	0	0	20	40
専門的能力	0	20	10	0	0	20	50
分野横断的能力	0	0	10	0	0	0	10

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0032	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	松原 義弘,海老原 毅,塩見 浩介,宮重 徹也,岡本 勝規,萩原 信吾,邢 雪歌		

到達目標

1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができない

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-3

教育方法等

概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。
授業の進め方・方法	各研究室において実施 各テーマの詳細は総表・個表を参照すること。成績評価は評価基準表を提示する。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。
		2週	研究	論文作成ができる。
		3週	研究	論文作成ができる。
		4週	研究	論文作成ができる。
		5週	研究	論文作成ができる。
		6週	研究	論文作成ができる。
		7週	研究	論文作成ができる。
		8週	研究	論文作成ができる。
	2ndQ	9週	研究	論文作成ができる。
		10週	研究	論文作成ができる。
		11週	研究	論文作成ができる。
		12週	研究	論文作成ができる。
		13週	研究	論文作成ができる。
		14週	研究	論文作成ができる。
		15週	前期中間報告	研究報告ができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	1年目後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。
		2週	研究	論文作成ができる。
		3週	研究	論文作成ができる。
		4週	研究	論文作成ができる。
		5週	研究	論文作成ができる。
		6週	研究	論文作成ができる。
		7週	研究	論文作成ができる。
		8週	研究	論文作成ができる。
	4thQ	9週	研究	論文作成ができる。
		10週	研究	論文作成ができる。
		11週	研究	論文作成ができる。
		12週	研究	論文作成ができる。
		13週	研究	論文作成ができる。
		14週	研究	論文作成ができる。
		15週	第４回特別研究発表会	研究報告ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	特別研究発表	特別研究論文	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際ビジネス学特別演習

科目基礎情報

科目番号	0033	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	松原 義弘,海老原 毅,西原 雅博,長谷川 博,宮重 徹也,塩見 浩介,萩原 信吾,宮崎 衣澄,村山 雅子,邢 雪歌,田嶋 雄太		

到達目標

1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができる	一定水準のレベルの研究ができない

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー C-3

教育方法等

概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。
授業の進め方・方法	各研究室において実施
注意点	

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。
		2週	研究	論文作成ができる。
		3週	研究	論文作成ができる。
		4週	研究	論文作成ができる。
		5週	研究	論文作成ができる。
		6週	研究	論文作成ができる。
		7週	研究	論文作成ができる。
		8週	研究	論文作成ができる。
	2ndQ	9週	研究	論文作成ができる。
		10週	研究	論文作成ができる。
		11週	研究	論文作成ができる。
		12週	研究	論文作成ができる。
		13週	研究	論文作成ができる。
		14週	研究	論文作成ができる。
		15週	第３回特別研究発表会	研究報告ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	ビジネス会計論

科目基礎情報

科目番号	0037	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	塩見 浩介		

到達目標

これまで学んだ経営学や会計学に関する基本的な知識をもとに，実践的なビジネスにおける会計を理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
企業会計について	企業会計の基本を非常に理解できる	企業会計の基本を理解できる	企業会計の基本を理解できない
企業会計分析について	企業会計分析の基本を非常に理解できる	企業会計分析の基本を理解できる	企業会計分析の基本を理解できない
企業会計の構造について	企業会計の構造について非常に理解できる	企業会計の構造について理解できる	企業会計の構造について理解できない

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	これまで学んだ経営学や会計学に関する知識をもとに，実践的なビジネスにおける会計について学習する。
授業の進め方・方法	講義（座学）と議論（ゼミ形式）。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておくこと （授業外学習・事後）授業内容の復習を行うこと
注意点	受講希望者は，先にIB1後期の「製品開発論」を受講しておくこと。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本講義の進め方について説明する。
		2週	ビジネス会計の基本Ⅰ	これまでの復習とB/Sの基本について学習する。
		3週	ビジネス会計の基本Ⅱ	これまでの復習とP/Lの基本について学習する。
		4週	ビジネス会計の基本Ⅲ	これまでの復習とC/Sの基本について学習する。
		5週	事例報告と議論①	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		6週	事例報告と議論②	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		7週	事例報告と議論③	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		8週	事例報告と議論④	学生が報告したテーマについて議論を行う。
	2ndQ	9週	事例報告と議論⑤	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		10週	事例報告と議論⑥	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		11週	事例報告と議論⑦	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		12週	事例報告と議論⑧	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		13週	事例報告と議論⑨	学生が報告したテーマについて議論を行う。
		14週	まとめ	ビジネス会計についての事例報告についてまとめて議論する。
		15週	期末試験	5回から14回までの議論内容に関するレポートとPPTを報告者がそれぞれ適宜作成する。
		16週	成績の確認	成績評価・確認を行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告	授業への参加態度	その他	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用情報処理論

科目基礎情報

科目番号	0038	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	萩原 信吾		

到達目標

1) アルゴリズムの設計ができる。
2) データ構造について説明ができる。
3) VBAを用いてプログラムの作成ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	無駄のないアルゴリズムを設計できる。	アルゴリズムの設計ができる。	アルゴリズムの設計ができる。
評価項目2	データ構造を工夫してプログラムに反映することができる。	データ構造について説明ができる。	データ構造について説明ができる。
評価項目3	自ら調べて自由にVBAのプログラムを組むことができる。	VBAを用いてプログラムの作成ができる。	VBAを用いてプログラムの作成ができる。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	現在EXCELはあらゆる業種の現場で用いられている表計算ソフトである。しかしながら、大半の現場ではその表計算ソフトのほとんどの機能が使用されず、人力で入力および計算がされている。そこでEXCELの自動処理に使用されるVBAを用い、VBAのプログラミングについて学ぶ。これにより実際の現場でVBAの自動処理を用いて、業務の効率化が可能となる。
授業の進め方・方法	講義による説明と演習による形式で行う。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておくこと （授業外学習・事後）授業内容の復習を行うこと
注意点	評価が60点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者にあっては、その評価を60点とする。 評価は課題で作成したものの評価とする。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	プログラムについての基礎知識
		2週	VBAの基礎	基礎的なアルゴリズムとそれにともなうデータ構造
		3週	VBAにおける変数と型	データと型における基本概念
		4週	VBAの条件分岐	VBAの構文規則などの言語基礎知識
		5週	for文	VBAの構文規則などの言語基礎知識
		6週	while文	VBAの構文規則などの言語基礎知識
		7週	foreach文	VBAの構文規則などの言語基礎知識
		8週	セル	セルの操作プロパティなど主要APIの説明
	2ndQ	9週	ファイル	ローカルシステムに対するファイル操作
		10週	課題作成	
		11週	課題作成	
		12週	課題作成	
		13週	課題作成	
		14週	課題作成	
		15週	課題作成	
		16週	課題作成	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	70
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経営システム科学論

科目基礎情報

科目番号	0039	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	村山 雅子		

到達目標

経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解する。
多変量解析の概要について学び、基礎的な解析手法を習得することを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を解くことができる。	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を説明を聞きながら解くことができる。	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を解くことができない。
評価項目2	多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げて説明できる。	多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げてやや不十分ながらも説明できる。	多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げて説明することができない。
評価項目3	多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を解くことが出来る。	多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を説明に従って解くことが出来る。	多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を解くことが出来ない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を学習する。 過去の実績を時系列分析する各種の需要予測手法，在庫管理，品質管理と信頼性の基礎概念について学ぶ。 多変量解析の基礎について理解する。
授業の進め方・方法	講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと
注意点	単位認定には60点以上の評定が必要である。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	シラバスの内容について説明する
		2週	代表値	集団の特徴を代表値でとらえる
		3週	分布と標準偏差	集団の特徴を分布でとらえる
		4週	基準値と偏差値	集団の中における個々のデータの位置をとらえる
		5週	個体間の距離（1）	ユークリッド距離の概念について説明できる。
		6週	個体間の距離（2）	マハラノビスの汎距離の概念について説明できる。
		7週	相関分析	相関分析により2変数間の関係を調べる
		8週	多変量解析	多変量解析の概念について説明できる。
	4thQ	9週	重回帰分析（1）	重回帰分析の概念について説明できる。
		10週	重回帰分析（2）	変数クラスター分析について説明できる。
		11週	判別分析（1）	判別分析の概念について説明できる。
		12週	判別分析（2）	判別分析演習
		13週	主成分分析（1）	主成分分析の概念について説明できる。
		14週	主成分分析（2）	主成分分析演習
		15週	期末試験	これまでに学んだ内容について試験を行う
		16週	成績確認	期末試験の成績確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	5	25
専門的能力	40	0	0	0	0	20	60
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	技術者倫理・企業倫理

科目基礎情報

科目番号	0043	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『工学倫理－実例でぶ学技術者の行動規範－』河村尚登著，東京電機大学出版局(2011年)		
担当教員	横田 数弘,塚田 章,松原 義弘		

到達目標

・技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができる.
・技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができる.
・科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解し，複数の解決策を提示することができる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得し，他者と十分に討論できる.	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができる.	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができない.
評価項目2	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができ，自身の意見をもっている.	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができる.	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができない.
評価項目3	科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解し，複数の解決策を提示することができる.	科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解できる.	科学技術に関する種々の事例を理解しようとしない.

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	重大事故や企業不祥事が相次いでいる昨今，技術者や企業経営者は生命や環境に影響する力を行使する機会と職業的権利を持つことから，その倫理観が重要視されている．本科目では，技術者に倫理が必要になった理由や企業倫理が求められる背景について具体的事例を題材に討論し，倫理的な行動を実践し，人と自然とが共生できる科学技術の発展に寄与するための基礎知識を習得する．また，知的所有権についても学習し，第9週では実務経験を有する弁理士を講師として招いてケーススタディなど通じて具体的に学習する.
授業の進め方・方法	複数教員によるオムニバス方式 第１週は複数の教員が担当する．第９週の授業は，弁理士を招聘し実際の知的財産権の現状について議論する. 学修単位のため，60時間相当の授業外学習が必要である．授業外学習・事前：授業内容を予習しておく．発表班は事前にレジュメや討論テーマを作成し，発表に備える。授業外学習・事後：授業内容を復習し，重要事項をノート等にまとめる．最終授業後にまとめレポートを作成・提出する。
注意点	授業で取り扱う具体的事例について，各自が社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考え，意見を述べることが重要である. 授業中の報告と質疑応答とレポート(60点)，事例発表(40点)で評価する．これらには授業時間外での班員による綿密な調査・ディスカッションが必要である. 単位認定には、60点以上の評定が必要である.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	・ガイダンス ・技術者倫理・企業倫理とは	技術者倫理・企業倫理の射程と背景を説明できる.
		2週	・モラルへのとびら ・技術者と倫理	モラルと倫理・法と倫理の関係，なぜ技術者倫理・企業倫理が必要かについて説明し，討論できる.
		3週	・現代社会における技術者としての資格，工学倫理の必要性 ・組織における個人，企業の社会的責任	現代社会における技術者・経営者としての資格，組織における個人，企業の社会的責任とコンプライアンスについて説明し，討論できる.
		4週	・内部告発と倫理 ・安全性とリスク	内部告発と公益通報者保護法，安全設計，安全工学，リスクへの対応，リスクに対する説明責任について説明し，討論できる.
		5週	・製造物責任と品質管理 ・工業所有権と倫理	製造物責任法，工業所有権の理念，特許制度と倫理について説明し，討論できる.
		6週	・著作権と倫理 ・ネットワークと倫理	著作権，著作者人格権，著作隣接権，肖像権，情報セキュリティの必要性，不正アクセス禁止法，ネット上のエチケットについて説明し，討論できる.
		7週	・グローバル活動と倫理 ・環境倫理と技術者	企業のグローバル化とそれに伴う問題，異文化との摩擦，持続可能な開発，環境保護のための技術，地球温暖化現象について説明し，討論できる.
		8週	・生命倫理と技術者 ・科学技術と未来への「つけ」	生命工学における倫理，臓器移植に関する倫理問題，技術者・経営者の未来への責任について説明し，討論できる.
	4thQ	9週	知財セミナー	弁理士を招聘し，特許に関するセミナーを実施する.
		10週	事例研究（１）	各班が技術者倫理・企業倫理に関する事例を調査し，問題点等を考察し討議する.
		11週	事例研究（２）	各班が技術者倫理・企業倫理に関する事例を調査し，問題点等を考察し討議する.

		12週	事例研究発表（1）	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し，全体で討論し，まとめを行う.
		13週	事例研究発表（２）	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し，全体で討論し，まとめを行う.
		14週	事例研究発表（３）	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し，全体で討論し，まとめを行う.
		15週	事例研究発表（４）	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し，全体で討論し，まとめを行う.
		16週	成績評価・確認，授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	討論・レポート	事例研究発表					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	20	20	0	0	0	0	40
分野横断的能力	20	20	0	0	0	0	40

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際関係論

科目基礎情報

科目番号	0044	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	随時配布する教材および「最新世界史図説タペストリー」		
担当教員	海老原 毅		

到達目標

1. 国際関係論の基本的な概念，理論と分析枠組みについて理解できる。
2. 近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。
3. 環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	国際関係論の基本的な概念，理論と分析枠組みについて十分に理解できる。	国際関係論の基本的な概念，理論と分析枠組みについて理解できる。	国際関係論の基本的な概念，理論と分析枠組みについて理解できない。
評価項目2	近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について十分に理解できる。	近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。	近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できない。
評価項目3	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から十分に分析できる。	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-1

教育方法等

概要	本科目では，多様な主体による行動から形成される国際社会の実情を，国際関係論の概念・理論の枠組みを用いて理解する視座と方法を養う。
授業の進め方・方法	前半では，国際関係の分析枠組みとして基本概念と理論について教授し，また近現代の主な世界秩序と期その背景を第一次世界大戦から冷戦期まで教授して，冷戦後の国際関係の特徴に対する受講生の理解を促す。後半では，グローバル化の進展とその趨勢下における国家のパワーの分析枠組みを教授した後，受講生にその分析枠組みを用いて，環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係の現状分析を実行させる。 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。
注意点	本科目では，指定される文献を事前に読み，要点をまとめておくことが求められる。また，レポートの内容を重視するので，レポートの執筆を指示に従って行うことが不可欠である。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前：授業内容を予習する。 授業外学習・事後：授業内容に関する課題を解く。課題については、レポートや課題として評価する。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスを通して、本科目の概要を理解する。
		2週	国際関係論の主題，国際社会の特徴	国際関係論の主題及び国際社会の特徴について説明できる。
		3週	国際関係の主要なアクター	国際関係の主要なアクターについて説明できる。
		4週	国際関係論の理論（1）	国際関係論の主要理論のうち，リアリストの議論と主な論者について説明できる。
		5週	国際関係論の理論（2）	国際関係論の主要理論のうち，リベラリストの議論と主な論者について説明できる。
		6週	近現代の国際関係（1）	第一次世界大戦から戦間期までの国際秩序について説明できる。
		7週	近現代の国際関係（2）	第二次世界大戦から冷戦期までの国際秩序について説明できる。
		8週	近現代の国際関係（3）	冷戦後の国際秩序について説明できる。
	4thQ	9週	近現代の国際関係（4）	冷戦後における国際関係の変容に関する文献を読み，討論できる。
		10週	グローバル化の進展と国家（1）	グローバル化の概念を明確にし，グローバル社会における国家の作用と影響について説明できる。
		11週	グローバル化の進展と国家（2）	グローバル化が進展する国際社会の中で国家のパワーに関する文献を読み，討論できる。
		12週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析（1）	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について，情報を収集し，現状を分析できる。
		13週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析（2）	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について，現状分析を発表し，討論できる。
		14週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析（3）	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について，現状分析を発表し，討論できる。
		15週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析（4）	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について，現状分析を発表し，討論できる。
		16週	総括，評価	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	課題	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	15	15	0	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	15	15	0	0	70	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	港湾実務

科目基礎情報

科目番号	0045	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	浅妻裕, 福田友子, 外川健一, 岡本勝規『自動車リユースとグローバル市場―中古車・中古部品の国際流通』,成山堂書店,2017。その他、適時プリント等を配布する。		
担当教員	岡本 勝規		

到達目標

①貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての基礎的知識を習得する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できると共に、それらの用語を用いて各手続きの流れと目的、利点・欠点を説明できる。	貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できる。	貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	学習目標(授業の狙い) 中古車の輸出を事例に、荷主が一般港湾運送業者・通関業者に委託して行う貿易実務の内容として，船積み書類及び輸出入申告の手続と、それらと商取引代金決済手続きの関係について学ぶ。
授業の進め方・方法	教員単独による講義を実施する。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関して配付した資料をもとに復習をする。
注意点	事前に配布されたプリントについてはあらかじめ目を通しておくこと。 各学生の評価は、期末試験の結果の点数で決定する。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。
		2週	輸出に向けた輸送手続きの制度－中古車輸出を事例に－	輸出制度の変化を概観し、輸出貿易管理令と関税法基本通達の役割を理解する。また、輸送段階と輸送手段の概要を把握する。
		3週	輸出に向けた輸送手続きの制度－中古車輸出を事例に－	輸出制度の変化を概観し、輸出貿易管理令と関税法基本通達の役割を理解する。また、輸送段階と輸送手段の概要を把握する。
		4週	輸出に向けた輸送手続きの制度と荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	インコタームズに定められた、主たる貿易定型条件の内容を理解する。
		5週	輸出に向けた輸送手続きの制度と荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	インコタームズに定められた、主たる貿易定型条件の内容を理解する。
		6週	輸出に向けた輸送手続きの制度と荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	インコタームズに定められた、主たる貿易定型条件の内容を理解する。
		7週	輸出に向けた輸送手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	B/L発行に至るまでの、船積みのための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。
		8週	輸出に向けた輸送手続きと荷物の流れ)－中古車輸出を事例に－	B/L発行に至るまでの、船積みのための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。
	2ndQ	9週	輸出に向けた輸送手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	B/L発行に至るまでの、船積みのための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。
		10週	輸出に向けた通関手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	E/P発行に至るまでの、通関のための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。また、S/Aの内容と目的を理解する。
		11週	輸出に向けた通関手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	E/P発行に至るまでの、通関のための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。また、S/Aの内容と目的を理解する。
		12週	輸出に向けた代金決済手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	L/C付き荷為替手形決済や、T/Tなど、商品代金回収のための手続きを把握し、船積み手続き・通関手続きとの関連、決済方法の利点・欠点を理解する。
		13週	輸出に向けた代金決済手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	L/C付き荷為替手形決済や、T/Tなど、商品代金回収のための手続きを把握し、船積み手続き・通関手続きとの関連、決済方法の利点・欠点を理解する。
		14週	輸出に向けた税金等の還付手続きと荷物の流れ－中古車輸出を事例に－	輸出業者に対する税金等還付の手続きについて理解する。
		15週	期末試験	講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。
		16週	答案返却、解説	本科目の成績について確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	港湾物流

科目基礎情報

科目番号	0046	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	小林輝夫,澤喜四郎,香川正俊,吉岡秀輝『現代日本経済と港湾』成山堂書店,2001。浅妻裕, 福田友子, 外川健一, 岡本勝規『自動車リユースとグローバル市場―中古車・中古部品の国際流通』,成山堂書店 ,2017。その他、適時プリント等を配布する。		
担当教員	岡本 勝規		

到達目標

港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を把握し、港湾物流における課題を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できると共に、港湾物流における今後の課題について見解を説明できる。	港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できる。	港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー A-2

教育方法等

概要	学習目標(授業の狙い) 港湾物流と地域経済との関連から、港湾物流が社会において果たしている役割を把握する。その上で、特に港湾において行われる物流業務の内容と変容を学ぶ。
授業の進め方・方法	教員単独よる講義を実施する。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関して配付した資料をもとに復習をする。
注意点	事前に配布されたプリントについてはあらかじめ目を通しておくこと。 各学生の評価は、期末試験の結果の点数で決定する。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。
		2週	世界における日本の港湾の位置づけ	日本の港湾の国際競争力について理解する。
		3週	国際的な生産分業	水平分業の進展について理解する。
		4週	ハブ港湾	ハブ港湾が発生した要因を理解する。
		5週	ハブ港湾	ハブ港湾となる条件を理解する。
		6週	港湾の物流拠点化	港湾における物流拠点性の進展と、現在求められる機能と役割について理解する。
		7週	港湾の物流拠点化	港湾における物流拠点性の進展と、現在求められる機能と役割について理解する。
		8週	港湾の物流拠点化	港湾における物流拠点性の進展と、現在求められる機能と役割について理解する。
	2ndQ	9週	港湾物流の特性	港湾物流が持つ特性について理解する。
		10週	港湾物流の特性	港湾物流が持つ特性について理解する。
		11週	自由貿易地域	自由貿易地域と輸入促進地域の仕組みと役割について理解する。
		12週	ＥＤＩ化	港湾物流のEDI化の目的と背景を理解する。
		13週	アウトソーシング	3PLの役割とその発生の背景を理解する。
		14週	複合一貫輸送	国際複合一貫運送の仕組みを把握した上で、港湾物流業との関わり、フォワーダーの位置づけについて理解する。
		15週	期末試験	講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。
		16週	答案返却、解説	本科目の成績について確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	数理意思決定論

科目基礎情報

科目番号	0047	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	国際ビジネス学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	萩原 信吾		

到達目標

1) 確率・統計における基本的な確率論が説明できる
2) 統計における推定が理解できる。
3) 統計における検定が理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	確率・統計における複雑な確率論が十分説明できる。	確率・統計における基本的な確率論が説明できる。	確率・統計における基本的な確率論が説明できない。
評価項目2	統計における様々な場合の推定が理解できる。	統計における推定が理解できる。	統計における推定が理解できない。
評価項目3	統計における様々な場合の検定が理解できる。	統計における検定が理解できる。	統計における検定が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

ディプロマポリシー B-2

教育方法等

概要	本講義ではマーケティングにおけるデータ分析で必須となる、確率・統計を学習する。そのため基本的な確率論を概観した後に、統計における、推定と検定を学習する。
授業の進め方・方法	講義を中心とし、学習内容を確認しながら進める。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておくこと （授業外学習・事後）授業内容の復習を行うこと
注意点	評価が60点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者にあっては、その評価を60点とする。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の概要について説明する。
		2週	離散確率	離散確率の基本的な演算ができる。
		3週	離散確率	離散確率の基本的な演算ができる。
		4週	連続確率	連続確率の概念と計算ができる。
		5週	連続確率	連続確率と確率分布の関係が理解できる。
		6週	点推定	点推定の概念が理解できる。
		7週	点推定	点推定の計算ができる。
		8週	区間推定	標準正規分布を前提とした母平均の区間推定ができる。
	2ndQ	9週	区間推定	標準正規分布を前提とし、母分散の区間推定ができる。
		10週	区間推定	標準正規分布を前提とした母分散の区間推定ができる。
		11週	検定	検定の概念が理解できる。
		12週	検定	有意水準と確率分布の関係が理解できる。
		13週	検定	場合に対する適切な検定方法が理解できる。
		14週	検定	実際のデータに対して、適切な検定方法を用いて検定ができる。
		15週	期末試験	学習内容の確認を行う。
		16週	成績評価・確認	講義のまとめと成績の確認を行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0